



# 付 属 資 料

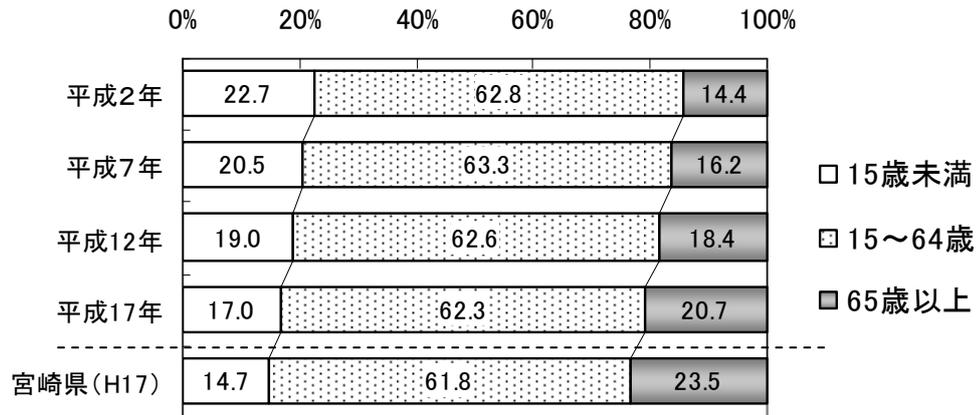
# 1 町土の利用区分の定義

利用区分	定 義	資 料
1 農用地	耕作の目的又は主として耕作、若しくは養畜の事業のための採草、若しくは家畜の放牧の目的に供される土地。	
(1)農地	耕作の目的に供される土地（農地法第2条第1項）。 畦畔を含み、水路、農道は含まない。	宮崎統計事務所発行の普通作物統計
(2)採草放牧地	農地以外の土地で、主として耕作又は養畜の事業のための採草又は家畜の放牧の目的に供されるもの（農地法第2条第1項）の土地を意味し、世界農林業センサス林業調査報告書の「林野等」の「採草放牧に利用されている面積（属地）のうち「森林以外の草生地（野草地）」がこれに当たる。	世界農林業センサス林業調査報告書 「林野面積統計」
2 森林	木竹が集団して生育している土地又は木竹の集団的な生育に供される土地。 固有林と民有林の合計である。なお、林道面積を除く。	
(1)国有林	①林野庁所管国有林 国有林の管理経営に関する法律第2条に定める固有林野から採草放牧に利用されている採草放牧地を除いたもの。 林地（立木地、伐採跡地、未立木地）のほかに、林道以外の除地（苗畑、貯木場、貸地、岩石地、沢敷等）を含む。 ②官行造林地 旧公有林野等官行造林法第1条の規定に基づき契約を締結しているもの。林地のほかに林道以外の除地を含む。 ③その他省庁所管国有林 林野庁以外の国が所有している森林法第2条第1項に定める森林。	公有林野等官行造林地施業計画書
(2)民有林	国以外の者が所有する森林法第2条第1項に定める森林。立木地、伐採跡地、更新困難地、竹林であって同法同条第3項に定める民有林である。  昭和49年の森林法改正に伴い地域森林計画対象森林はその自然的、経済的、社会的諸条件から見て、森林として利用することが相当でない民有林は除くこととされたので（森林法第5条）、数値の把握に当たっては地域森林計画における森林面積に地域森林計画対象外の森林の面積を加えること。	
3 原野	林野（不動産登記事務取扱手続準則の「山林」「原野」）のうち森林でない草生地を意味し、世界農林業センサス林業調査報告書の「森林以外の草生地」から「採草放牧地」及び「国有林」を除いた面積である。	世界農林業センサス林業調査報告書及び林野面積統計
4 水面・河川・水路		全国都道府県市区町村別面積調
(1)水面	「湖沼」「人造湖（ダム）」「ため池」をいう。 満水時の水面面積であり、堤体は含まない。	
(2)河川	一級河川及び二級河川（河川法第3条第1項）。 水面及び水面船籍で堤防は含まない。	
(3)水路	農業用排水路及び発電水路敷。	

利用区分	定 義	資 料
5 道路 (1)一般道路 (2)農道 (3)林道	<p>一般道路（道路法第2条第1項）及び農林道車道部（車道、中央帯、路肩）、歩道部、自転車道部及び法面等の面積である。私道、道路運送法第2条第8項の自動車道及び港湾道路等は含まない。</p>	<p>道路現況調査、市町村道路台帳</p> <p>農道台帳</p> <p>林道台帳</p>
6 宅地 (1)住宅地 (2)工業用地 (3)その他の住宅	<p>建物の敷地及び建物の維持、又は公用を果たすために必要な土地。</p> <p>昭和49年以前の固定資産の価格等の概要調書の「宅地」のうち、「一般住宅地」「併用住宅地」及び「農家の住宅地」の合計。</p> <p>なお、村落部分については地籍調査実施前後の住宅面積移動率を用いて補正する。</p> <p>住宅地と評価されている道路プリンロット空地を含む。</p> <p>昭和50年から地方税法施行規則様式が変更されているので、現況数値は最近における宅地に対する住宅地の割合、同割合の変化状況等により推定する。</p> <p>各年末において事業所が使用している敷地の全面積である。ただし、鉱区、住宅、寄宿舎、グラウンド及びその他の福利厚生施設等に使用している敷地については、生産設備（倉庫等を含む）等の敷地と道路（公道）・塀・柵等により明確に区別されている場合並びにこれらの敷地の面積が何らかの方法で区別できる場合。</p> <p>また、事業所の隣接地による拡張予定地を含む。</p> <p>現況数値は「宅地」から「住宅地」「工業用地」を差し引いて算出する。</p>	<p>固定資産の価格等の概要調書</p> <p>工業統計調査個票</p> <p>固定資産の価格等の概要調書</p> <p>固定資産の価格等の概要調書</p>
7 その他	<p>町の総面積から「農用地」「森林」「原野」「水面・河川・水路」「道路」「宅地」の各面積の総和を差し引いた面積。</p>	<p>固定資産の価格等の概要調書</p>

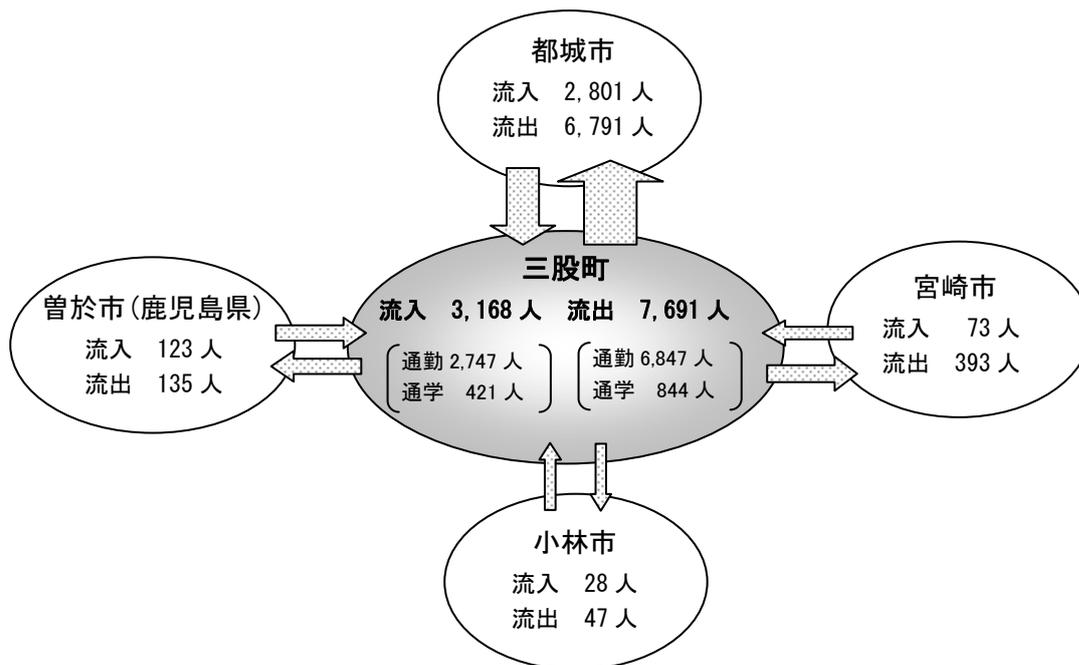
## 2 人口の推移と目標

年齢3区分別人口割合の推移



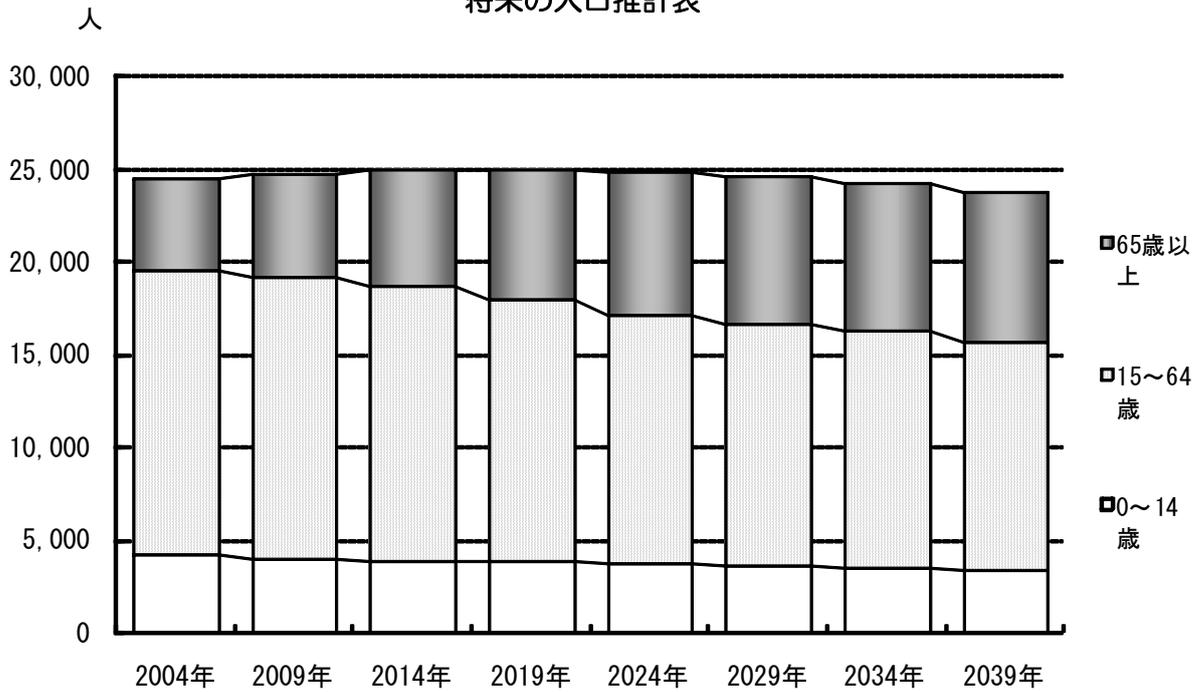
資料：国勢調査

通勤・通学の流出入状況



資料：平成17年国勢調査（15歳以上対象）

将来の人口推計表



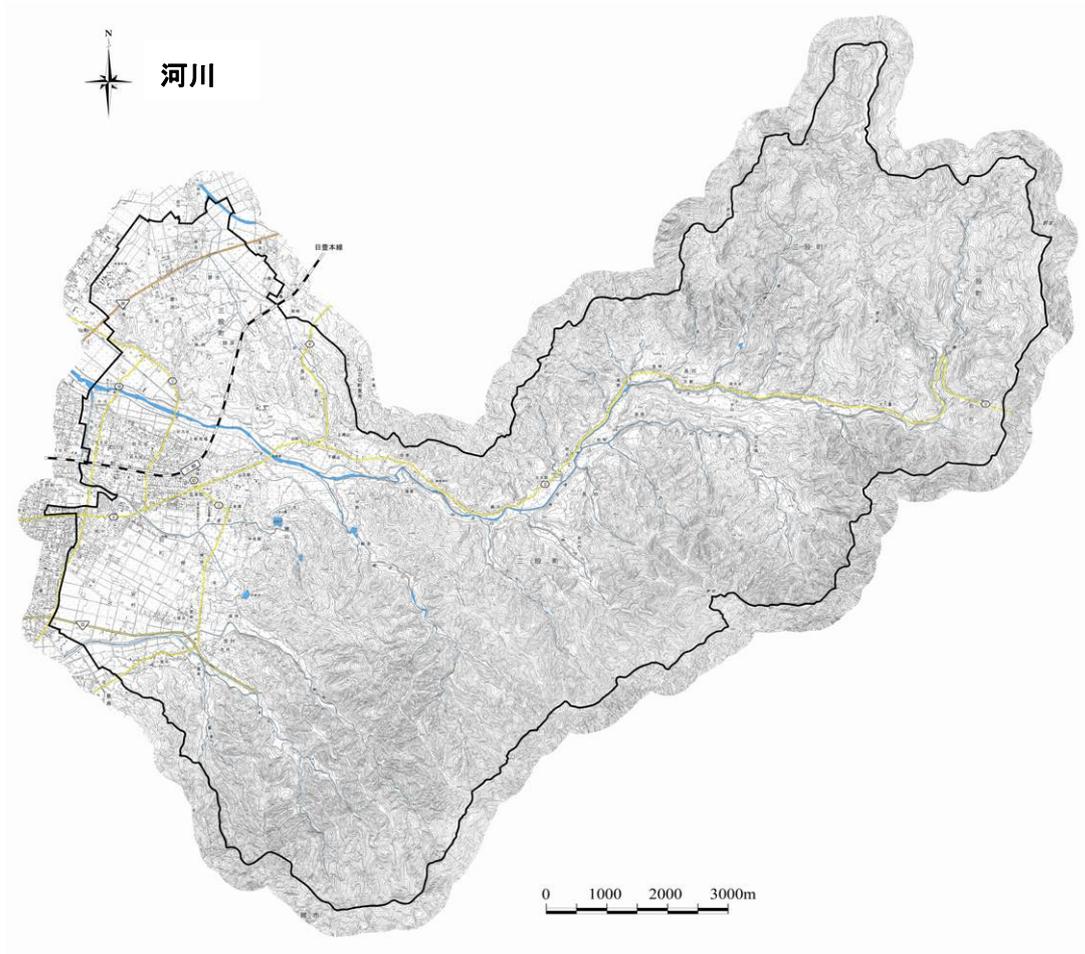
将来の人口推計表

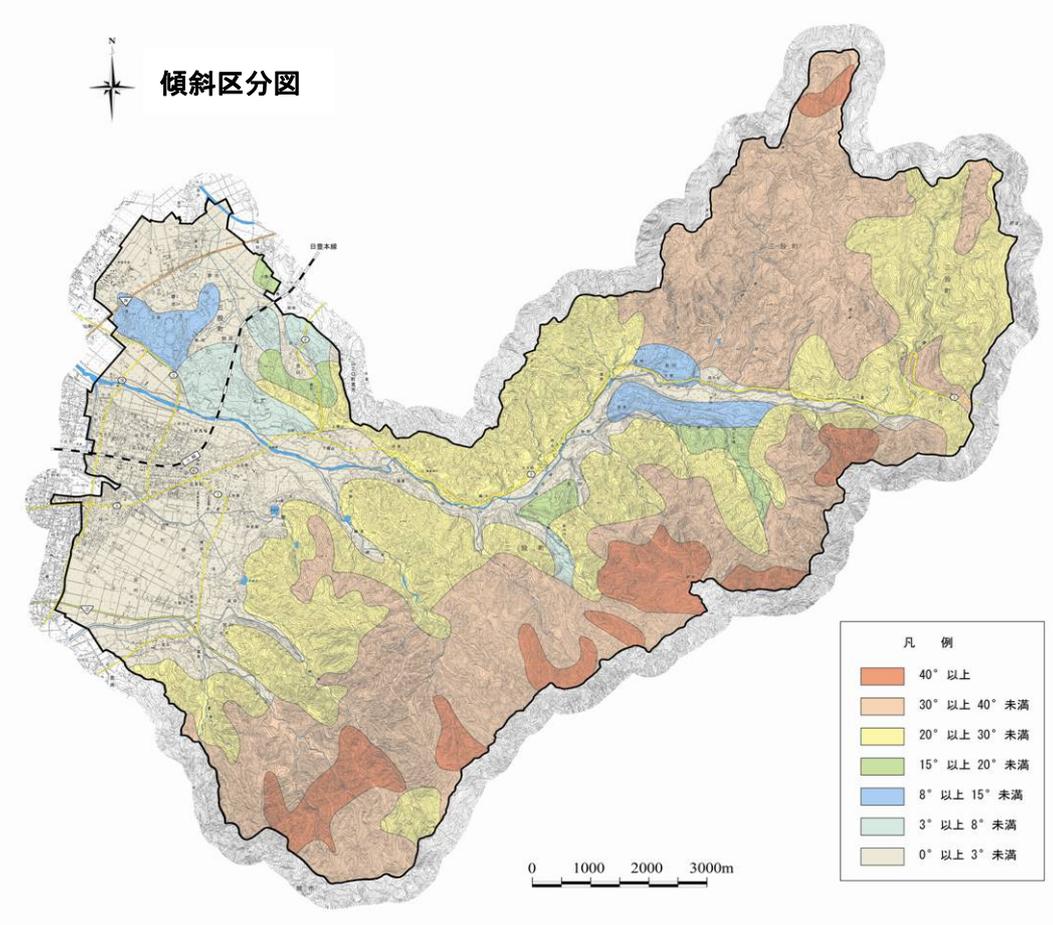
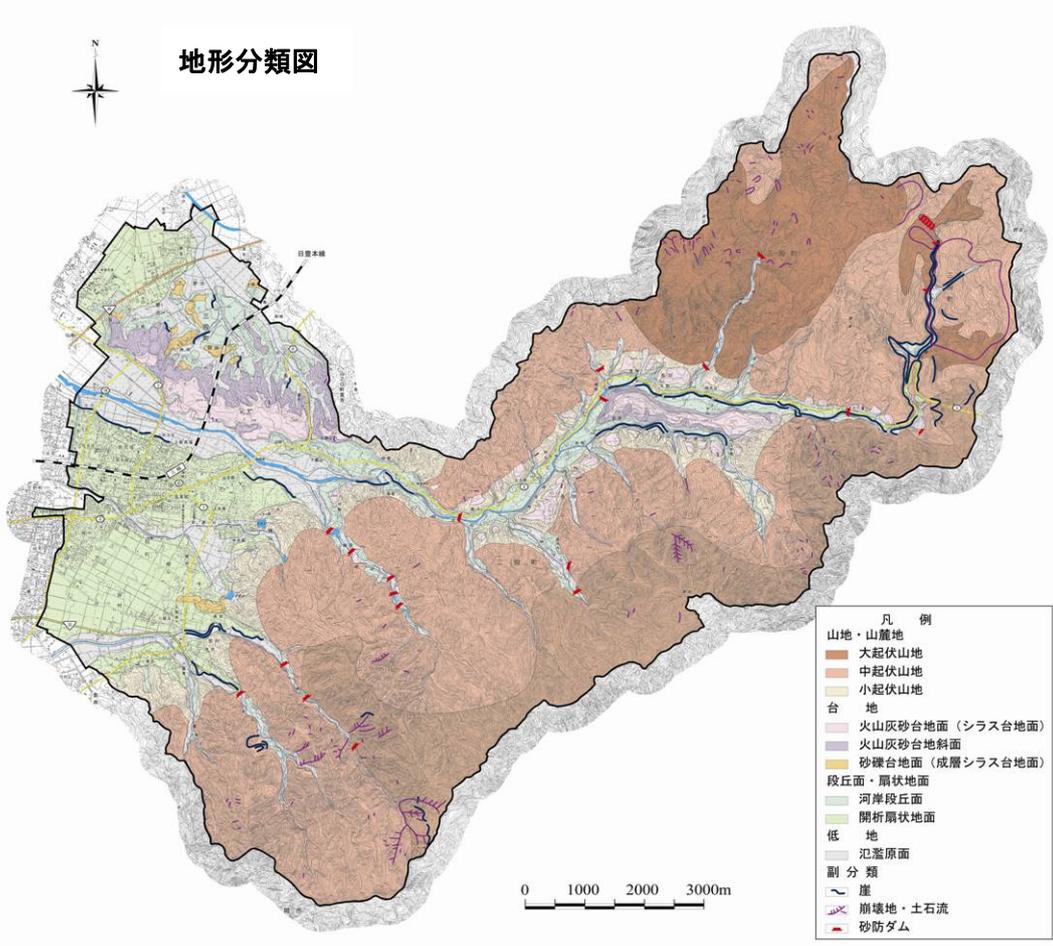
年齢	2014年(平成26年)			2019年(平成31年)		
	総数	男	女	総数	男	女
0～4	1,194	591	603	1,162	575	587
5～9	1,350	647	703	1,305	626	679
10～14	1,414	678	736	1,428	682	746
15～19	1,414	730	684	1,317	630	687
20～24	985	425	560	941	419	522
25～29	1,204	523	681	1,053	446	607
30～34	1,449	697	752	1,393	623	770
35～39	1,522	738	784	1,525	752	773
40～44	1,567	756	811	1,587	784	803
45～49	1,385	651	734	1,511	728	783
50～54	1,546	708	838	1,374	629	745
55～59	1,837	862	975	1,573	721	852
60～64	1,879	935	944	1,827	863	964
65～69	1,637	814	823	1,826	896	930
70～74	1,324	609	715	1,556	747	809
75～79	1,193	517	676	1,206	526	680
80～84	919	348	571	1,033	409	624
85～	1,208	295	913	1,443	361	1,082
総数	25,027	11,524	13,503	25,060	11,417	13,643

(人、%)

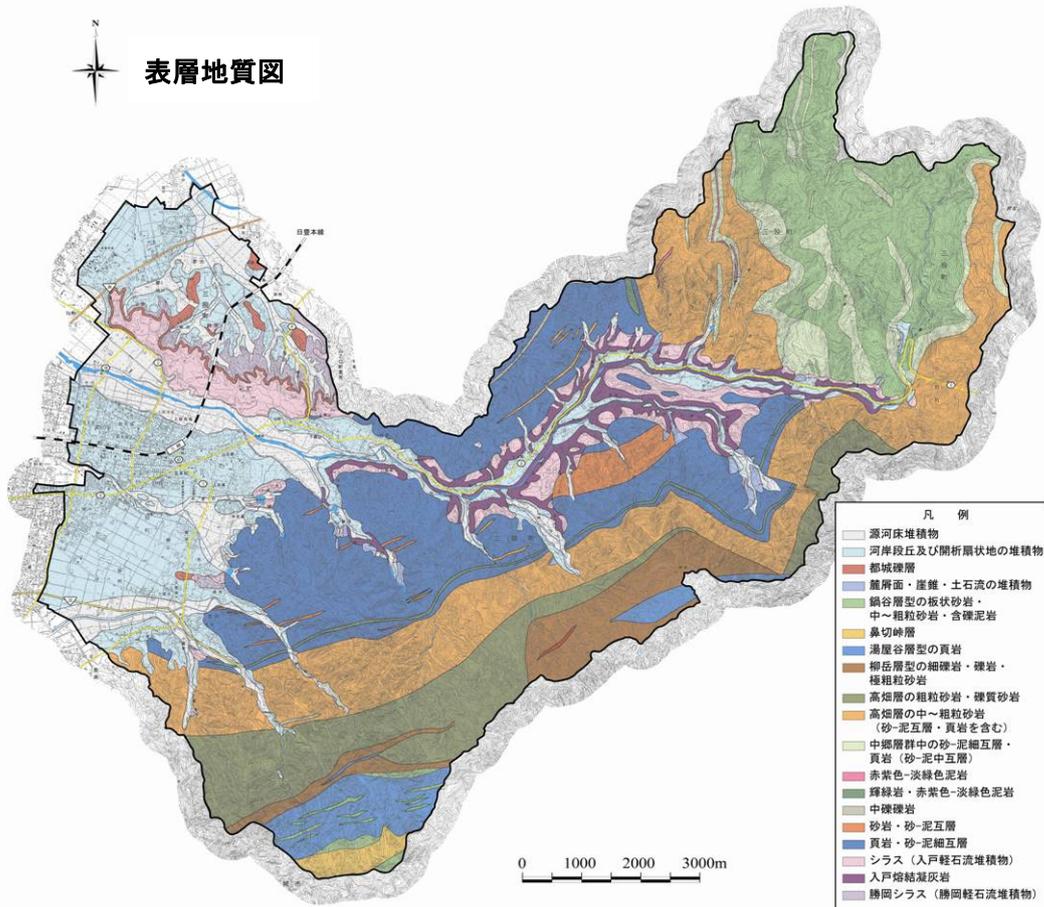
年齢	2014年(平成26年)			2019年(平成31年)		
	総数	男	女	総数	男	女
0～14歳	3,958 15.8%	1,916 16.6%	2,042 15.1%	3,895 15.5%	1,883 16.5%	2,012 14.7%
15～64歳	14,788 59.1%	7,025 61.0%	7,763 57.5%	14,101 56.3%	6,595 57.8%	7,506 55.0%
65歳以上	6,281 25.1%	2,583 22.4%	3,698 27.4%	7,064 28.2%	2,939 25.7%	4,125 30.2%
総数	25,027 100.0%	11,524 100.0%	13,503 100.0%	25,060 100.0%	11,417 100.0%	13,643 100.0%

自然環境

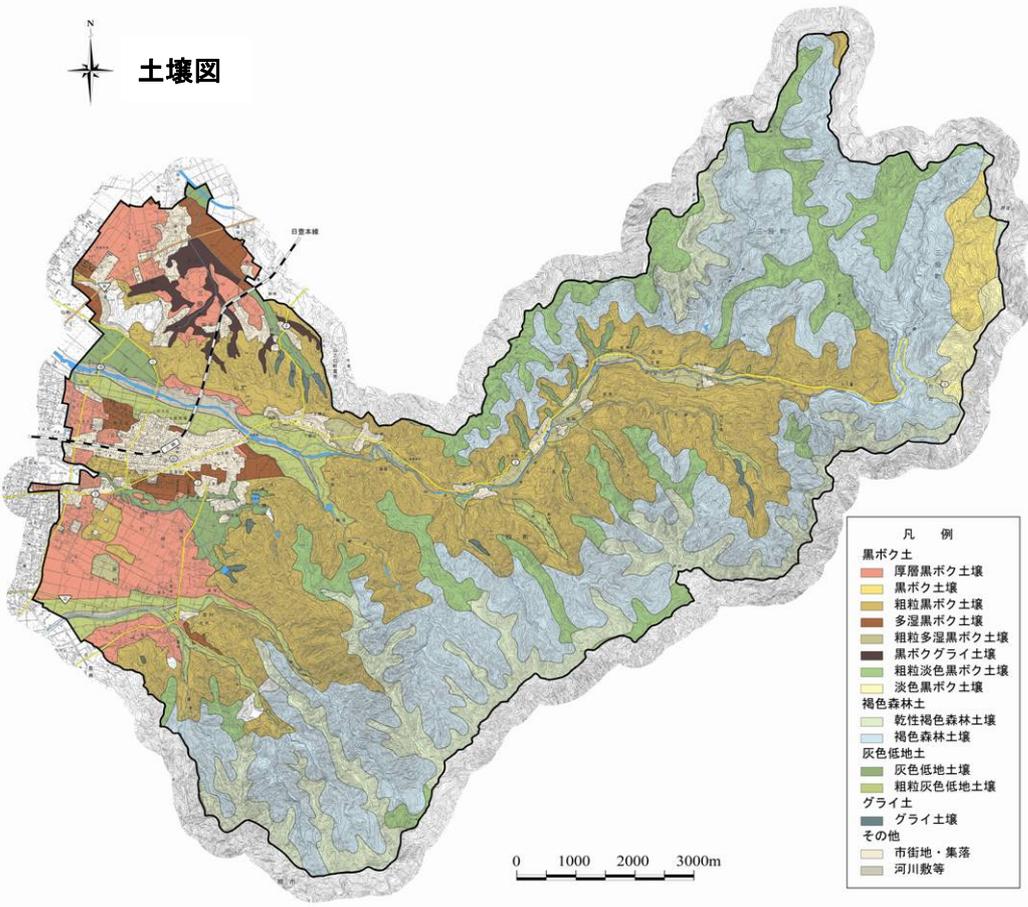




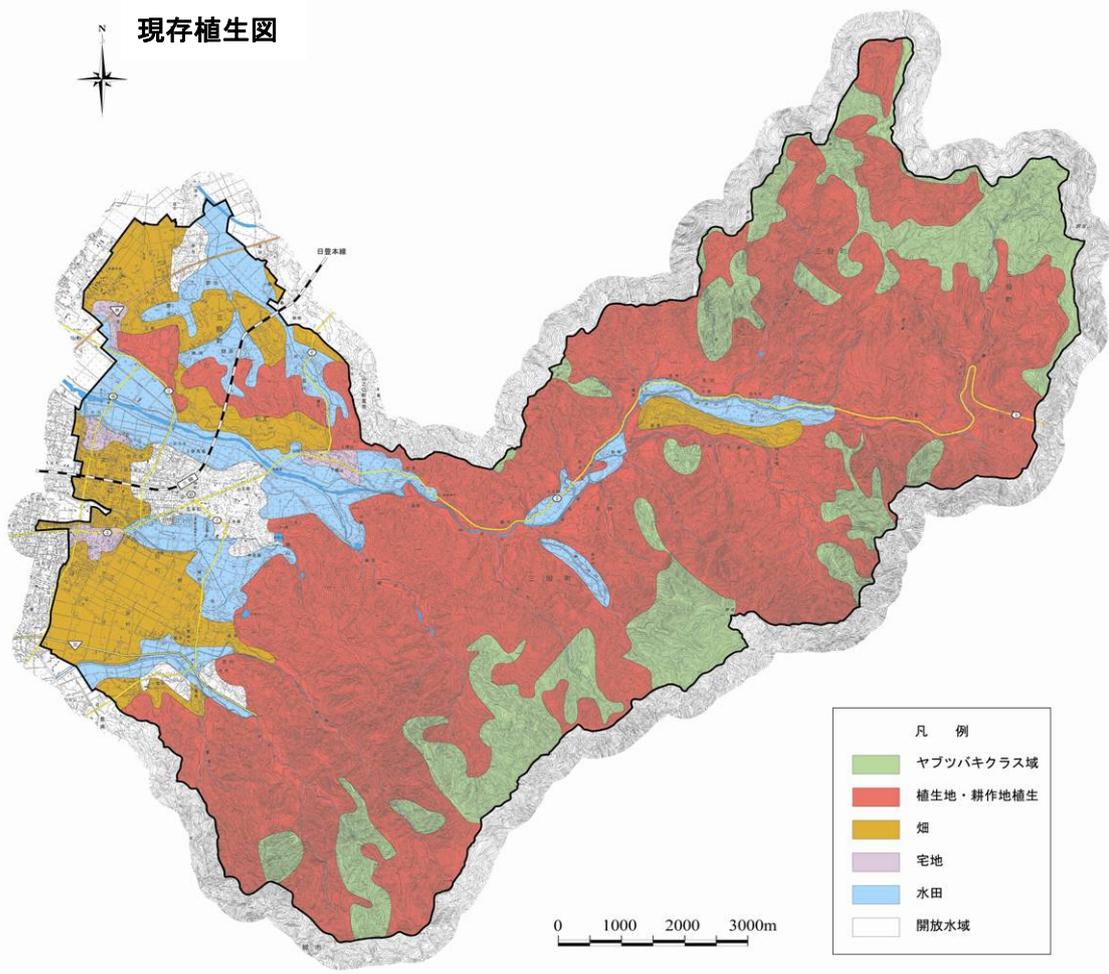
表層地質図



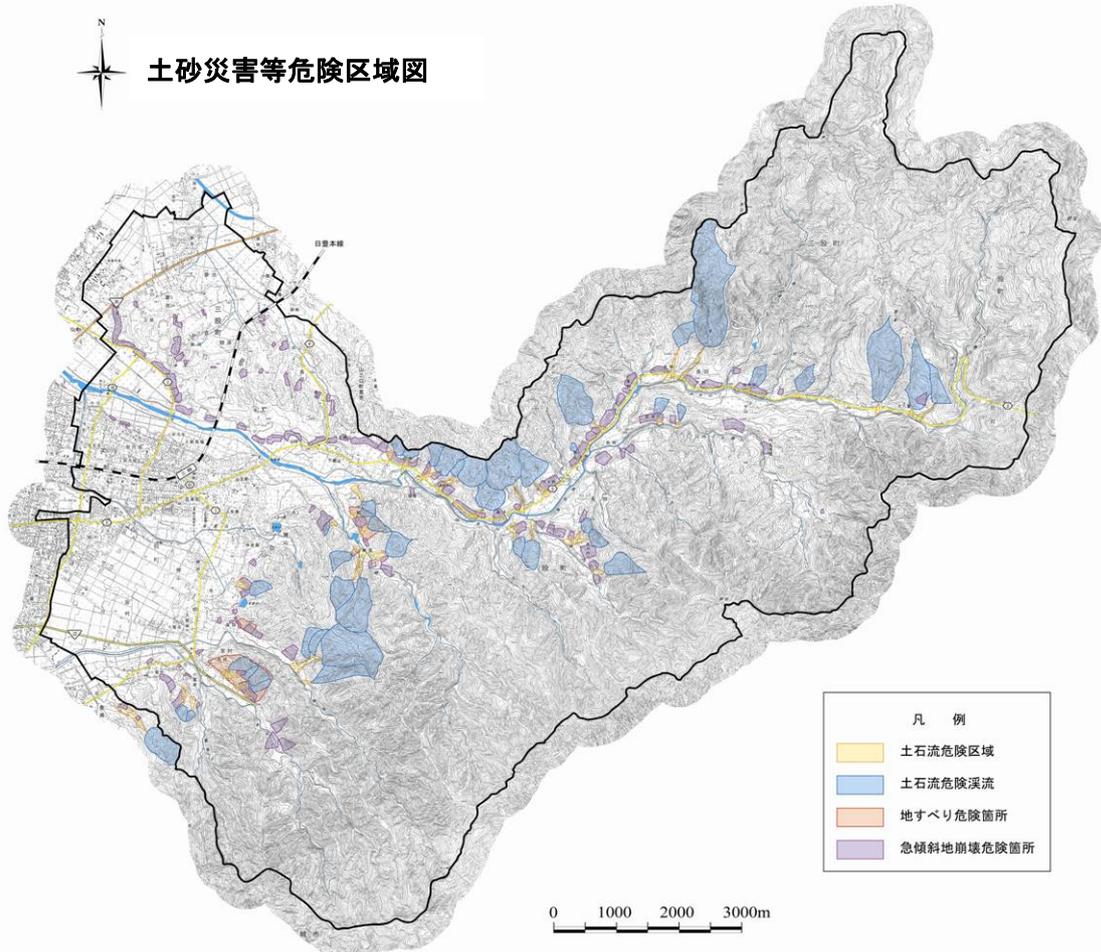
土壌図



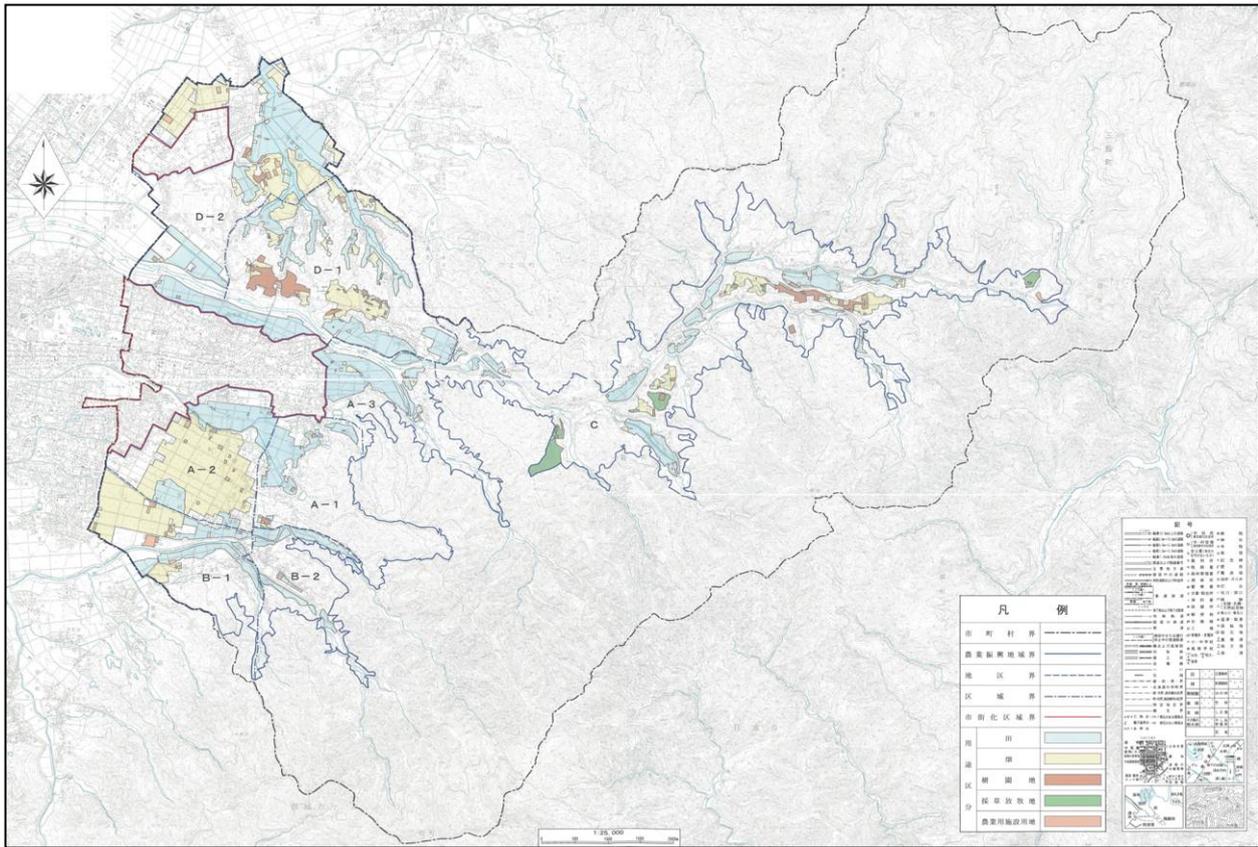
現存植生図



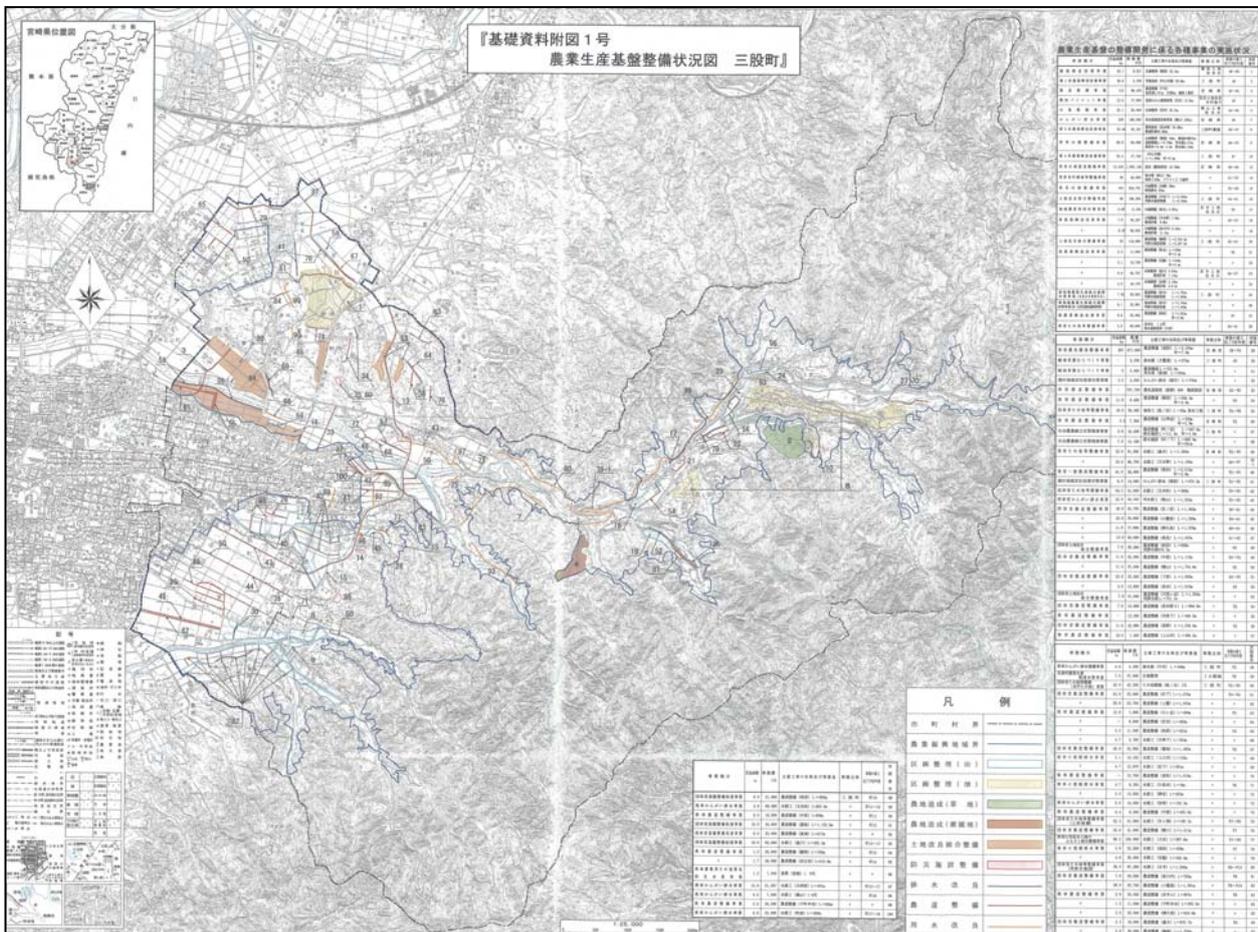
土砂災害等危険区域図



都市計画土地利用計画図



農業生産基盤状況図



### 3 利用区分ごとの町土利用の推移と目標

(上段：ha、下段：%)

利用区分	年次	推 移			目 標	
		平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年
農 用 地		1,344 (12.2)	1,300 (11.8)	1,330 (12.1)	1,344 (12.2)	1,353 (12.3)
田		818 (7.4)	803 (7.3)	723 (6.6)	661 (6.0)	604 (5.5)
畑		526 (4.8)	497 (4.5)	607 (5.5)	683 (6.2)	749 (6.8)
採草放牧地		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
森 林		7,980 (72.5)	7,949 (72.3)	7,879 (71.6)	7,802 (70.9)	7,741 (70.4)
原 野		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
水面・河川・水路		241 (2.2)	241 (2.2)	241 (2.2)	241 (2.2)	241 (2.2)
水 面		5 (0.0)	5 (0.0)	5 (0.0)	5 (0.0)	5 (0.0)
河 川		187 (1.7)	187 (1.7)	187 (1.7)	187 (1.7)	187 (1.7)
水 路		49 (0.4)	49 (0.4)	49 (0.4)	49 (0.4)	49 (0.4)
道 路		329 (3.0)	327 (3.0)	333 (3.0)	337 (3.1)	343 (3.1)
一般道路		291 (2.6)	302 (2.7)	308 (2.8)	316 (2.9)	324 (2.9)
農 道		21 (0.2)	16 (0.1)	16 (0.1)	12 (0.1)	10 (0.1)
林 道		17 (0.2)	9 (0.1)	9 (0.1)	9 (0.1)	9 (0.1)
宅 地		551 (5.0)	586 (5.3)	622 (5.7)	678 (6.2)	728 (6.6)
住 宅 地		384 (3.5)	406 (3.7)	423 (3.8)	443 (4.0)	463 (4.2)
工業用地		25 (0.2)	13 (0.1)	19 (0.2)	22 (0.2)	27 (0.2)
その他の住宅		142 (1.3)	167 (1.5)	180 (1.6)	213 (1.9)	238 (2.2)
そ の 他		556 (5.1)	598 (5.4)	596 (5.4)	599 (5.4)	595 (5.4)
合 計		11,001	11,001	11,001	11,001	11,001

資料：普通作物統計、宮崎県林業統計要覧、道路現況調査書、農道台帳、林道台帳、市町村税の状況

## 4 町民意識調査結果の概要

### (1) 三股町の土地利用についてのアンケート調査結果

#### ア 土地利用に対する評価

三股町の土地利用の評価については、「商業業務用地」、「工業用地」において、やや問題並びに適切でないという回答割合が上回っており、他の土地利用に比べて評価が低くなっています。

	適切		計	やや問題		計
	適切	おおむね適切		やや問題	適切でない	
農用地	4.1%	32.3%	36.4%	15.1%	4.1%	19.2%
商業業務用地	2.1%	20.2%	22.3%	24.4%	9.1%	33.5%
工業用地	2.4%	21.5%	23.9%	18.6%	8.7%	27.3%
住宅地	3.6%	37.4%	41.0%	13.7%	7.1%	20.8%
森林	3.0%	33.4%	36.4%	13.1%	5.4%	18.5%
全体的な評価	1.9%	31.4%	33.3%	22.9%	3.3%	26.2%

#### イ 今後の土地利用の方向性

今後の土地利用の方向性を用途別に見ると、回答結果から以下のように示されます。

	今後の土地利用の方向性
農用地	生産性の向上を図る。
商業業務用地	既存商業業務用地の整備充実を図る。
工業用地	工業用地の拡大を進める。・既存工業用地の整備充実を図る。
住宅地	既存住宅団地の生活環境整備に努める。
森林	森林の維持管理に努める。

#### ウ 居住地域の将来の土地利用イメージ

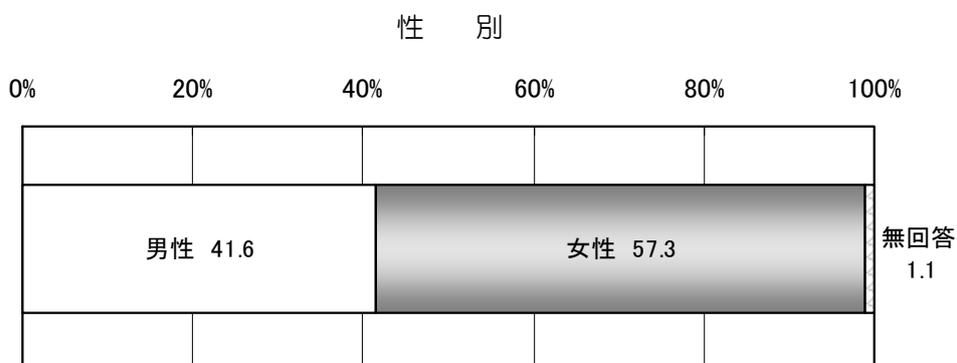
回答結果から、各地区の将来土地利用イメージは、以下のように示されます。

地区名	将来の土地利用イメージ
1地区	賑わいある商業地域、良好な住宅地、自然環境に囲まれた地域
2地区	うるおいある田園地域
3地区	うるおいある田園地域、自然環境に囲まれた地域
4地区	うるおいある田園地域
5地区	自然環境に囲まれた地域
6地区	賑わいある商業地域、良好な住宅地、自然環境に囲まれた地域
7地区	良好な住宅地
8地区	良好な住宅地
9地区	良好な住宅地

## エ 回答者の属性

### (ア) 性別

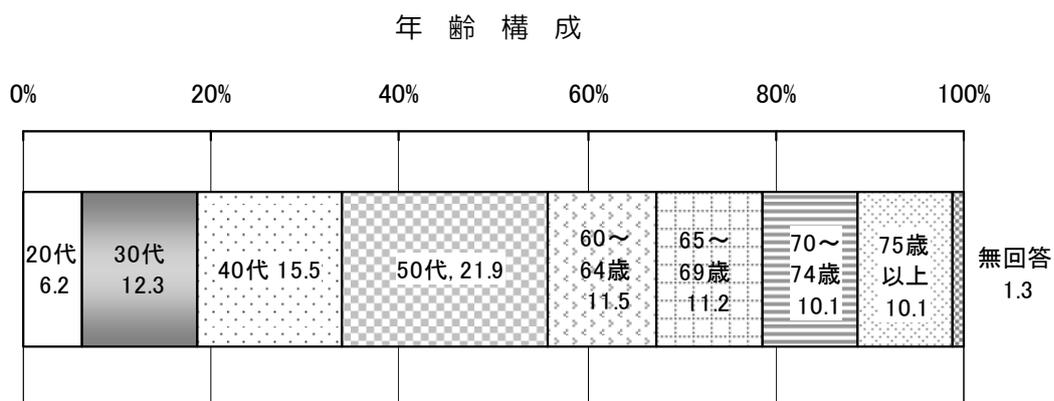
回答者の性別は「男性」41.6%、「女性」57.3%となっています。



回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除く構成比 (%)
男 性	264	41.6	42.1
女 性	363	57.3	57.9
無回答	7	1.1	
合 計	634	100.0	627

### (イ) 年齢

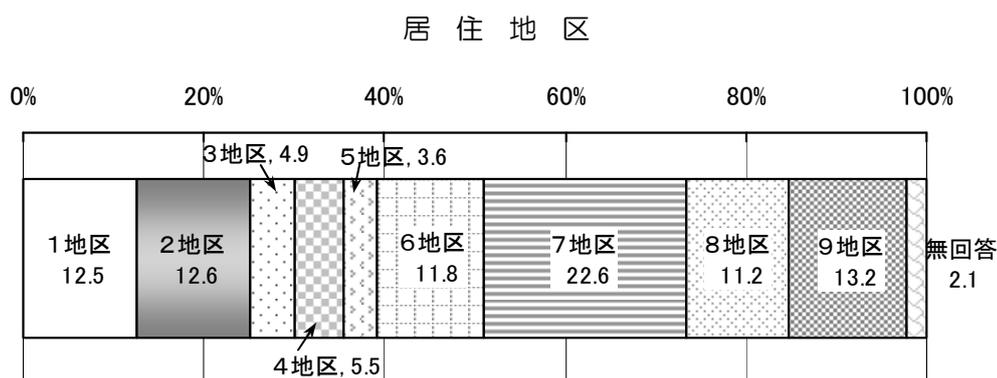
回答者の年齢構成は下のグラフに示すように、「50代」が21.9%を占め、最も高い割合を占めています。



回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除く 構成比 (%)
20～29 歳	39	6.2	6.2
30～39 歳	78	12.3	12.5
40～49 歳	98	15.5	15.7
50～59 歳	139	21.9	22.2
60～64 歳	73	11.5	11.7
65～69 歳	71	11.2	11.3
70～74 歳	64	10.1	10.2
75 歳以上	64	10.1	10.2
無 回 答	8	1.3	
合 計	634	100.0	626

### (ウ) 居住地区

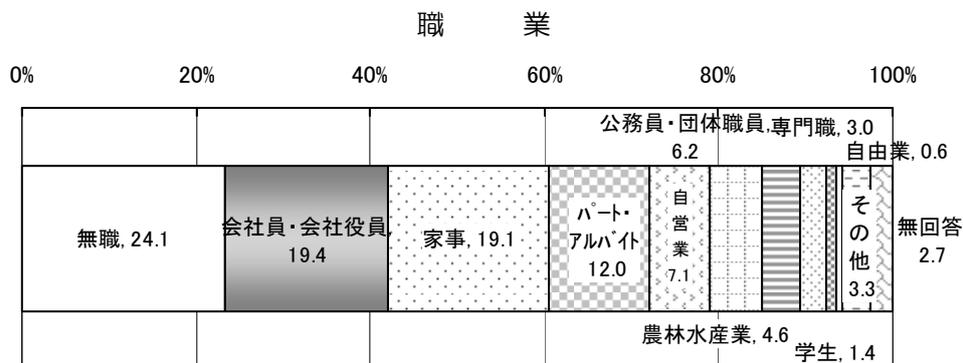
回答者の居住地区の構成比は、下のグラフ並びに表に示すとおりです。



回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除く 構成比 (%)
1 地区	79	12.5	12.7
2 地区	80	12.6	12.9
3 地区	31	4.9	5.0
4 地区	35	5.5	5.6
5 地区	23	3.6	3.7
6 地区	75	11.8	12.1
7 地区	143	22.6	23.0
8 地区	71	11.2	11.4
9 地区	84	13.2	13.5
無回答	13	2.1	
合 計	634	100.0	621

## (工) 職業

回答者の職業は、「無職」が 24.1%を占め最も多く、次いで「会社員・会社役員」、「家事」の順となっています。

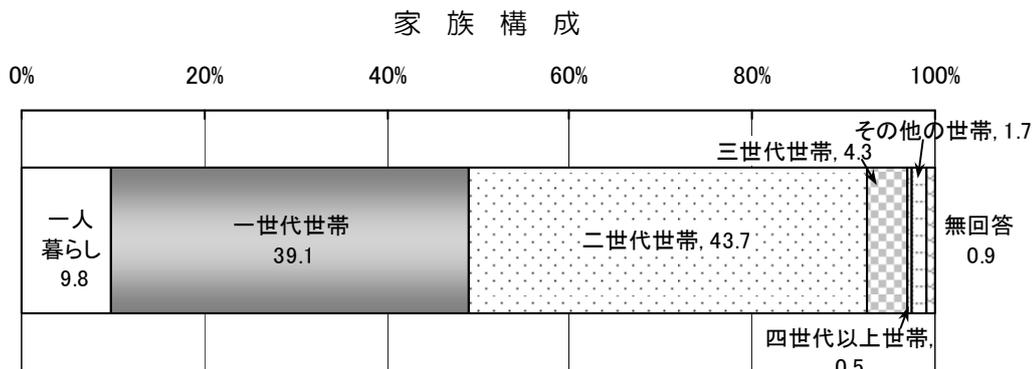


回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除く構成比 (%)
無 職	153	24.1	24.8
会社員・会社役員	123	19.4	19.9
家 事	121	19.1	19.6
パート・アルバイト	76	12.0	12.3
自営業	45	7.1	7.3
公務員・団体職員	39	6.2	6.3
農林水産業	29	4.6	4.7
専門職	19	3.0	3.1
学 生	9	1.4	1.5
自由業	4	0.6	0.6
その他	21	3.3	3.4
無回答	17	2.7	
合 計	634	100.0	617

その他の回答	人数 (人)	その他の回答	人数 (人)
内 職	3	看護師	2
介護職	2	調理師	1
嘱託職員	1	理容業	1
病院経営	1	学校法人	1
私立高校職員	1	転職活動中	1
保育園パート	1	契約社員	1
無回答	5		
		合 計	21

## (オ) 家族構成

回答者の家族構成は、「二世世代世帯（親・子など）」が43.7%を占め最も多く、次いで「一世代世帯（夫婦のみ世帯など）」、「一人暮らし世帯」の順となっています。

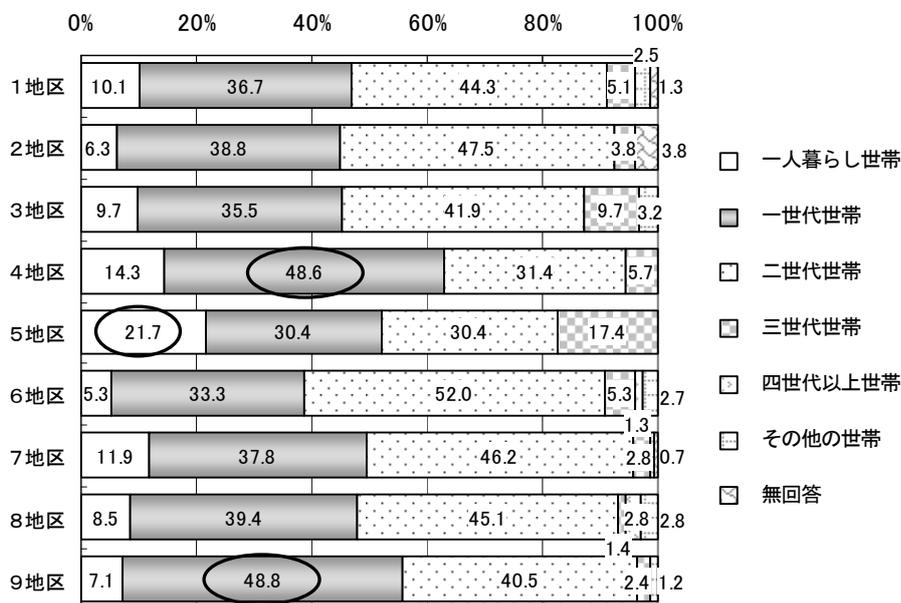


回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除く構成比 (%)
一人暮らし世帯	62	9.8	9.9
一世代世帯	248	39.1	39.5
二世世代世帯	277	43.7	44.1
三世世代世帯	27	4.3	4.3
四世代以上世帯	3	0.5	0.5
その他の世帯	11	1.7	1.8
無回答	6	0.9	
合 計	634	100.0	628

※「その他の世帯」は病院入院、施設入所者等となっています。

地区別の家族構成を見ると、“4地区”と“9地区”は「一世代世帯」の割合が最も高く、また、“5地区”は「一人暮らし世帯」の割合が21.7%と、全地区の中で最も高い割合を示しています。

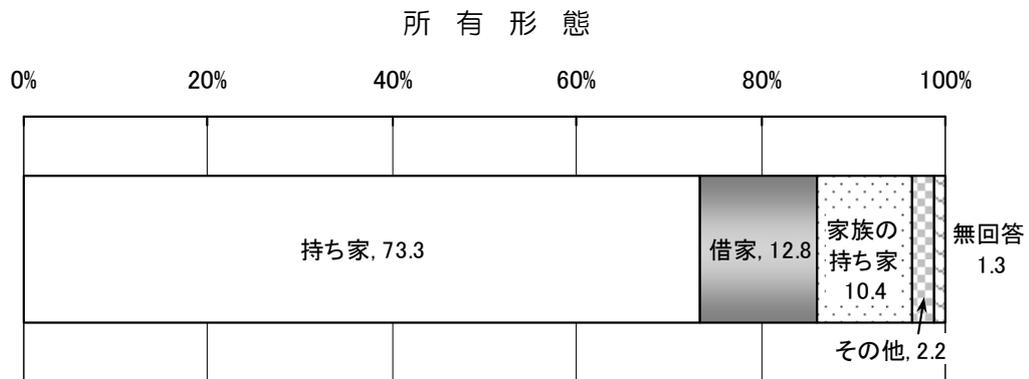
地区別の家族構成



## オ 住まいについて

### (ア) 所有形態

住居の所有形態は、「持ち家」が73.3%と圧倒的に高い割合を示しています。

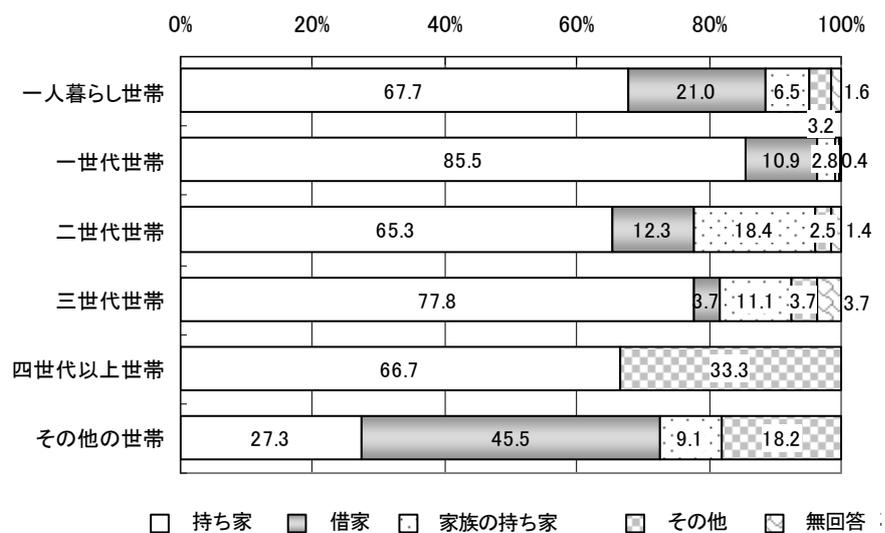


回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除く構成比 (%)
持ち家	465	73.3	74.3
借家	81	12.8	12.9
家族の持ち家	66	10.4	10.5
その他	14	2.2	2.2
無回答	8	1.3	
合計	634	100.0	626

※「その他」は病院入院、施設入所者等となっています。

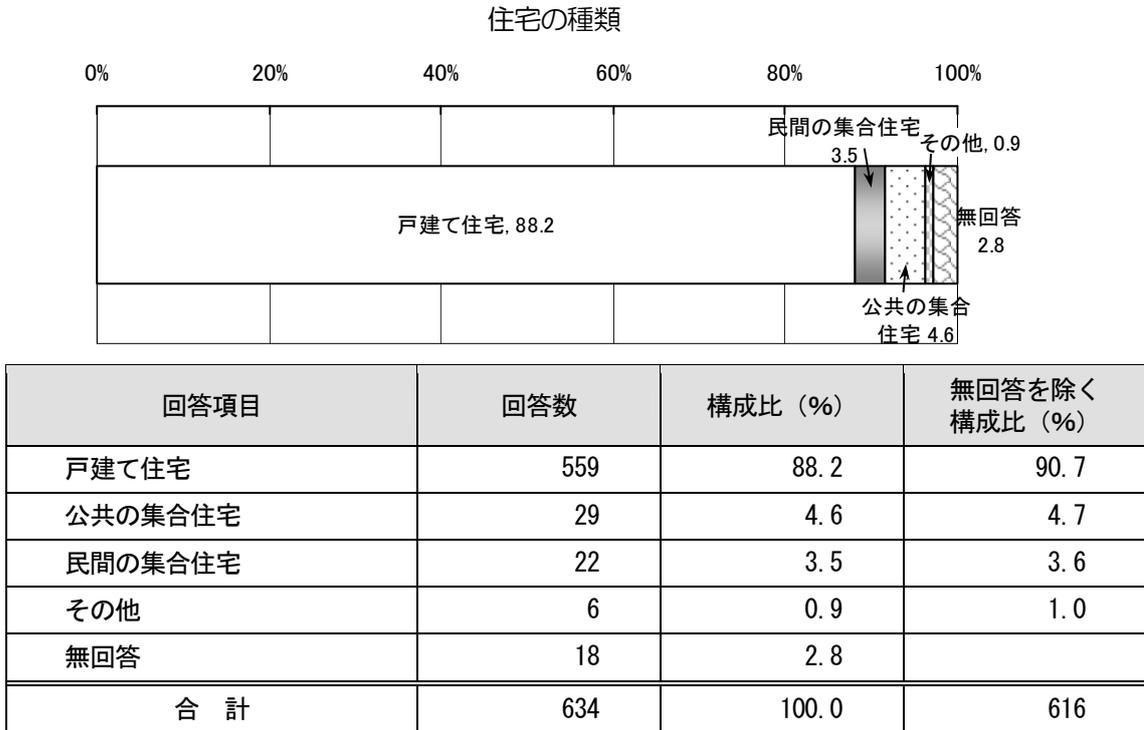
また、家族構成別の住居の所有形態を見ると、いずれも「持ち家」が高い割合を示しています。

### 家族構成別の住居の所有形態



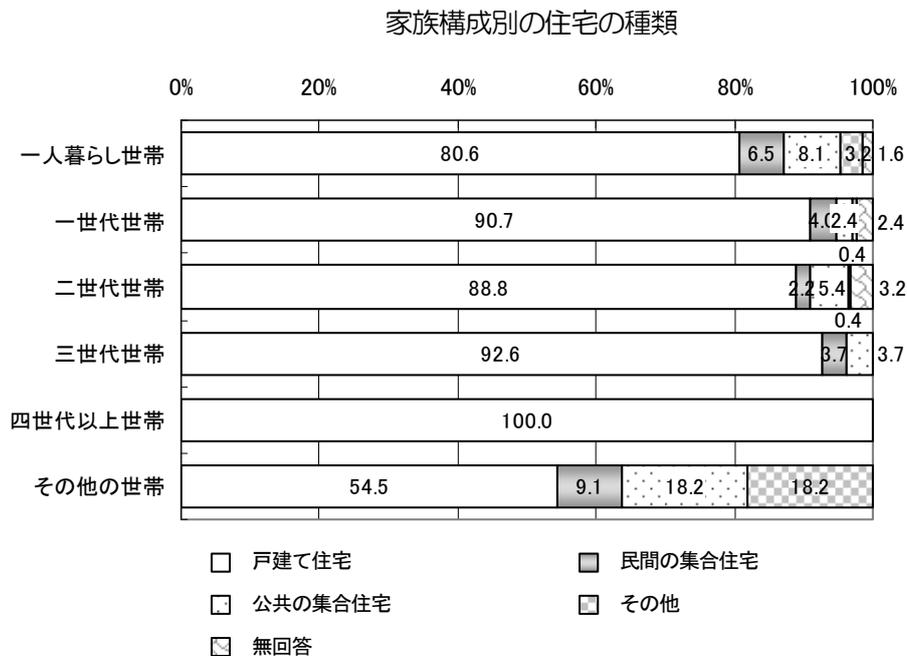
## (イ) 住宅の種類

住宅の種類については、「戸建て住宅」が88.2%と圧倒的に高い割合を示しています。



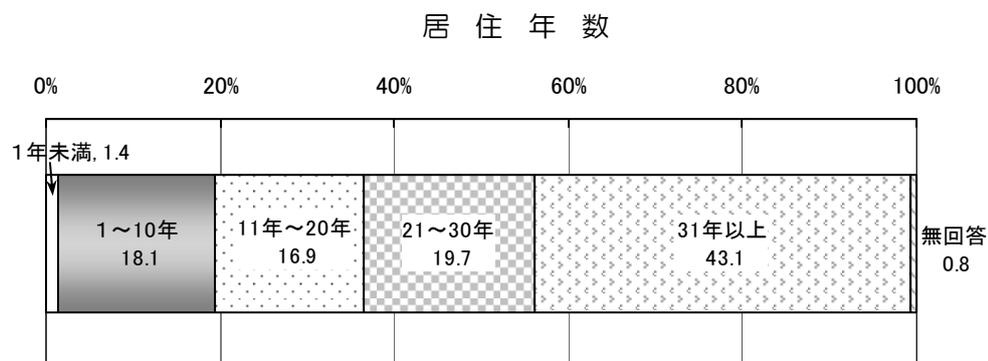
※「その他」は病院入院、施設入所者等となっています。

また、家族構成別の住宅の種類を見ると、「その他の世帯」を除くすべての家族構成において、「戸建て住宅」が圧倒的に高い割合を示しています。



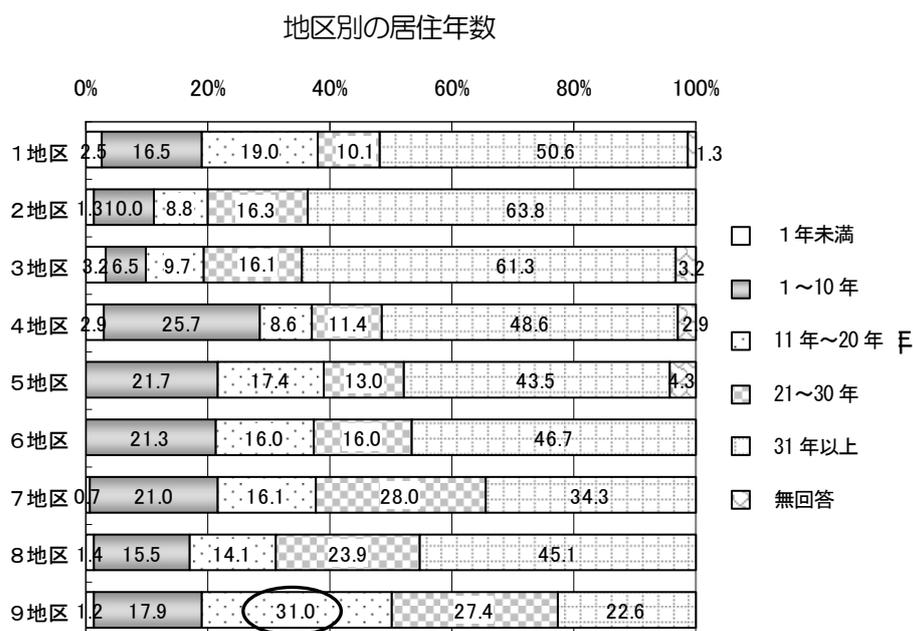
## (ウ) 居住年数

居住年数は、「31年以上」が43.1%を占め最も多く、次いで「21～30年」、「1～10年」となっています。



回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除く構成比 (%)
1年未満	9	1.4	1.4
1～10年	115	18.1	18.3
11年～20年	107	16.9	17.0
21～30年	125	19.7	19.9
31年以上	273	43.1	43.4
無回答	5	0.8	
合 計	634	100.0	629

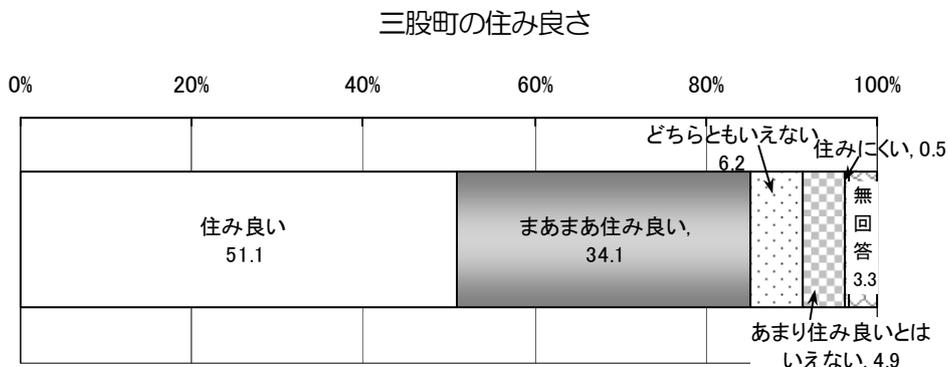
また、地区別の居住年数を見ると、“9地区”のみ「11年～20年」の割合が最も高く、他の地区は「31年以上」が最も高くなっています。中でも「2地区」と「3地区」は60%を超える高い割合を示しています。



## カ 三股町の住みごこちや定住意向などについて

### (ア) 住み良さの実感

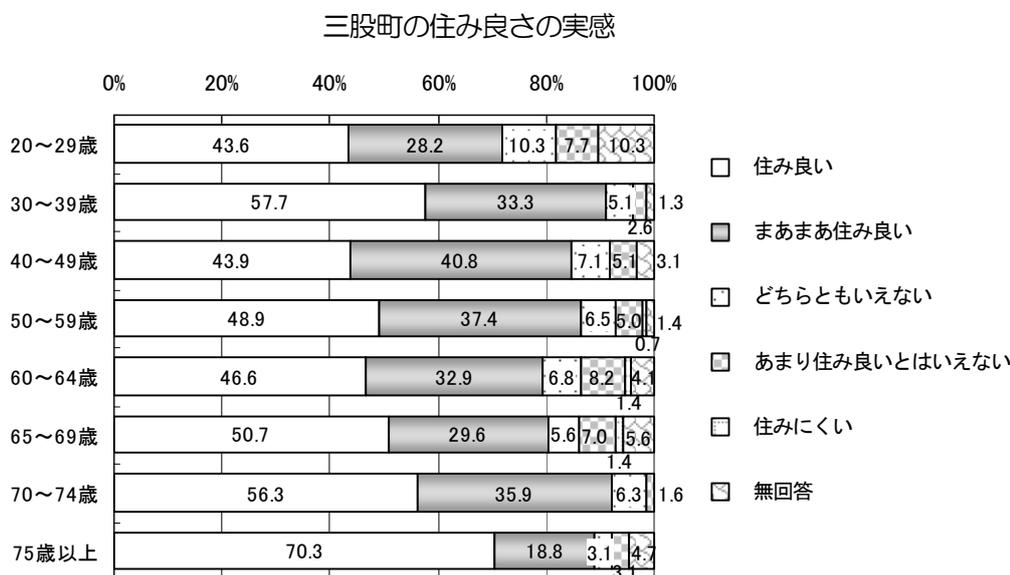
三股町の住み良さについては、「住み良い」が51.1%と半数を占めており、「まあまあ住み良い」と合わせると、「住み良い」と実感している人は約85%を占めています。



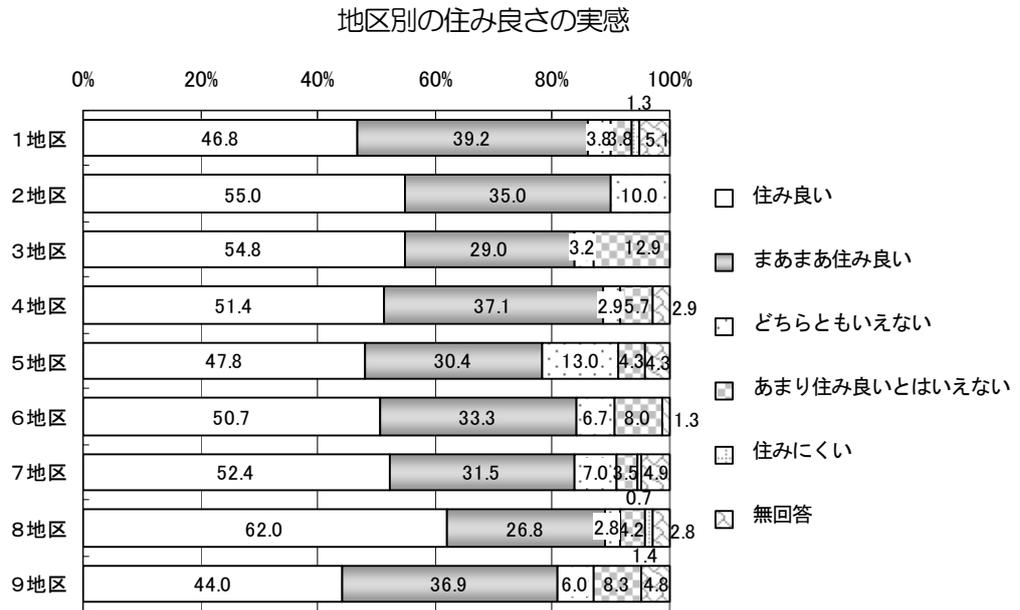
回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除く構成比 (%)
住み良い	324	51.1	52.9
まあまあ住み良い	216	34.1	35.2
どちらともいえない	39	6.2	6.4
あまり住み良いとはいえない	31	4.9	5.1
住みにくい	3	0.5	0.5
無回答	21	3.3	
合計	634	100.0	613

年齢別の回答では、「住み良い」との回答は“75歳以上”が70.3%と最も高い割合を占めています。

また、「住み良い」と「まあまあ住み良い」を合わせた割合は、“30歳代”と“75歳上”が90%を超え、特に高い割合を示しています。

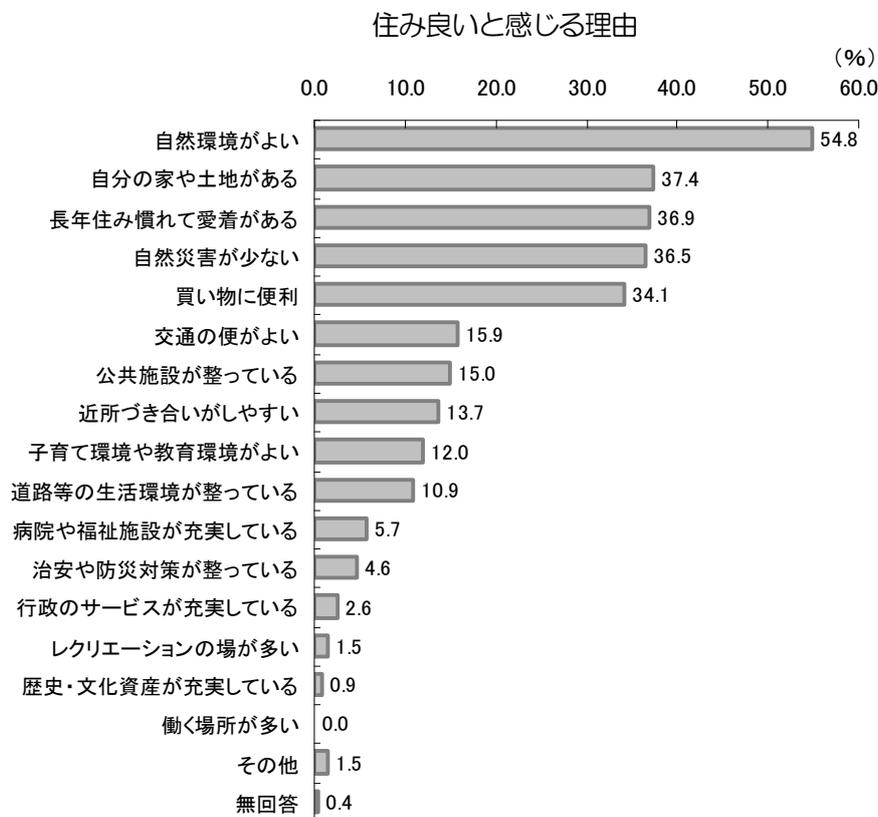


地区別の回答では、いずれの地区も「住み良い」、「まあまあ住み良い」という回答が高い割合を占めています。中でも、“2地区”“4地区”“9地区”は、両回答を合わせた割合が90%に達しています。



### (イ) 住み良いと感じる理由

アで「住み良い」又は「まあまあ住み良い」と回答した人に、住み良いと感じる理由を尋ねたところ、「自然環境がよい」という回答が54.8%と最も高い割合を示しています。

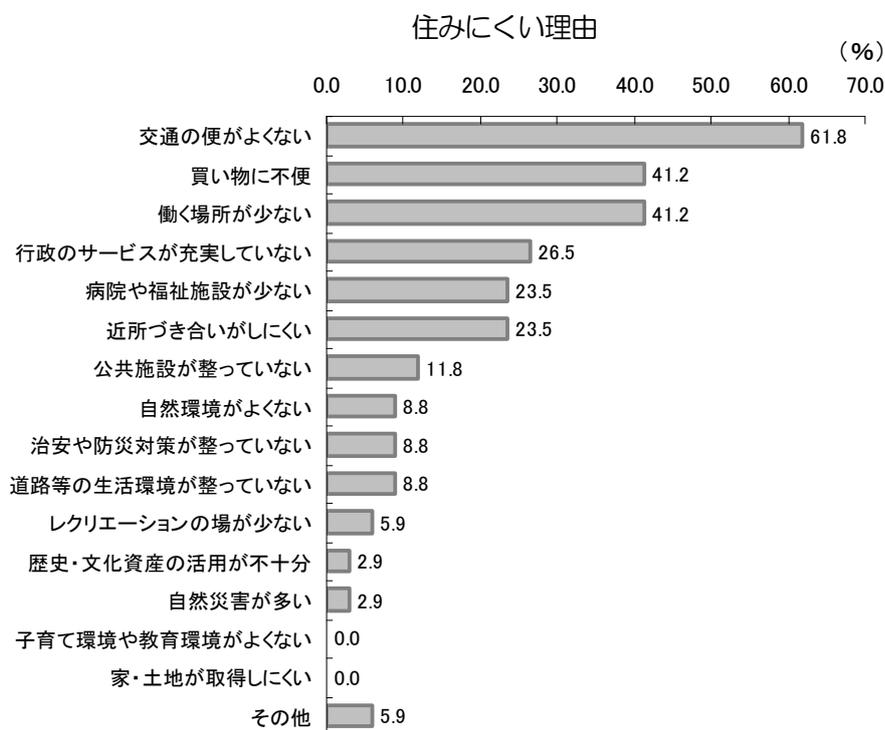


回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除く 構成比 (%)
自然環境がよい	296	54.8	55.0
自分の家や土地がある	202	37.4	37.5
長年住み慣れて愛着がある	199	36.9	37.0
自然災害が少ない	197	36.5	36.6
買い物に便利	184	34.1	34.2
交通の便がよい	86	15.9	16.0
公共施設が整っている	81	15.0	15.1
近所づき合いがしやすい	74	13.7	13.8
子育て環境や教育環境がよい	65	12.0	12.1
道路等の生活環境が整っている	59	10.9	11.0
病院や福祉施設が充実している	31	5.7	5.8
治安や防災対策が整っている	25	4.6	4.6
行政のサービスが充実している	14	2.6	2.6
レクリエーションの場が多い	8	1.5	1.5
歴史・文化資産が充実している	5	0.9	0.9
働く場所が多い	0	0.0	0.0
その他	8	1.5	1.5
無回答	2	0.4	
合 計	540	100.0	538

その他の回答	人数 (人)
都城市内に近い	2
駐車場が広い、隣家と離れている	1
税金が安い	1
都城市のベッドタウン的意味で位置がよく、賃貸住宅が多い	1
中心街から適度に離れており、便利、静かで住みやすい	1
貸借料が安い	1
都城市と合併せずに良かった	1
合 計	8

## (ウ) 住みにくい理由

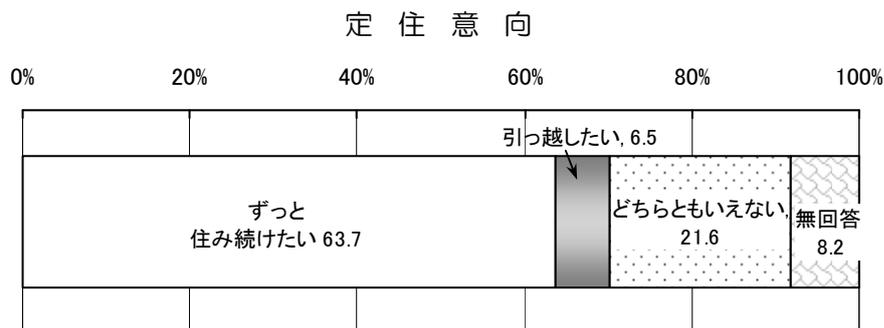
アで「あまり住み良いとはいえない」又は「住みにくい」と回答した人に、住みにくい理由を尋ねたところ、「交通の便がよくない」という回答が61.8%と最も高い割合を示しています。



回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除く構成比 (%)
交通の便がよくない	21	61.8	61.8
買い物に不便	14	41.2	41.2
働く場所が少ない	14	41.2	41.2
行政のサービスが充実していない	9	26.5	26.5
病院や福祉施設が少ない	8	23.5	23.5
近所づき合いがしにくい	8	23.5	23.5
公共施設が整っていない	4	11.8	11.8
自然環境がよくない	3	8.8	8.8
治安や防災対策が整っていない	3	8.8	8.8
道路等の生活環境が整っていない	3	8.8	8.8
レクリエーションの場が少ない	2	5.9	5.9
歴史・文化資産の活用が不十分	1	2.9	2.9
自然災害が多い	1	2.9	2.9
子育て環境や教育環境がよくない	0	0.0	0.0
家・土地が取得しにくい	0	0.0	0.0
その他	2	5.9	5.9
合計	34	100.0	34

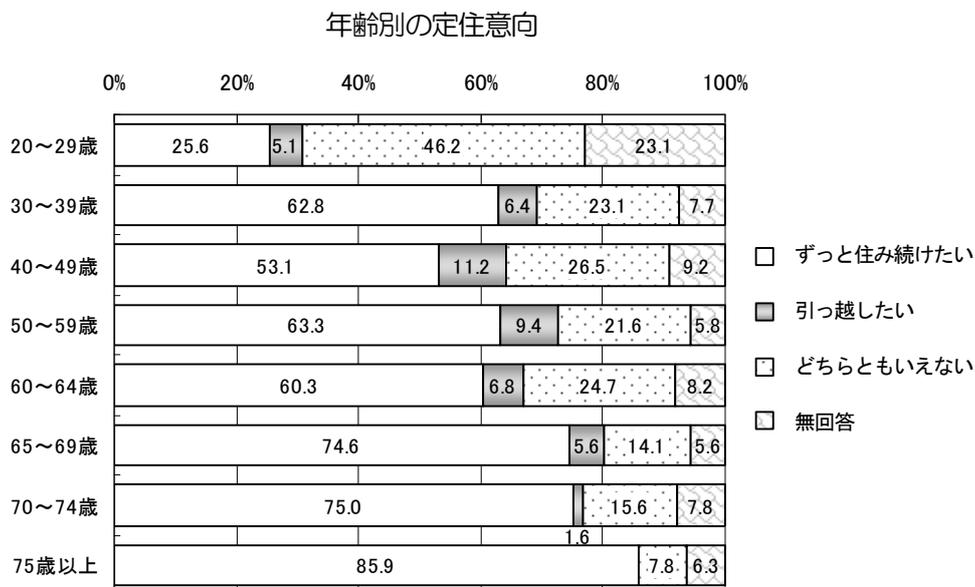
## (工) 定住意向

定住意向については、回答者の6割強が「ずっと住み続けたい」と回答しています。



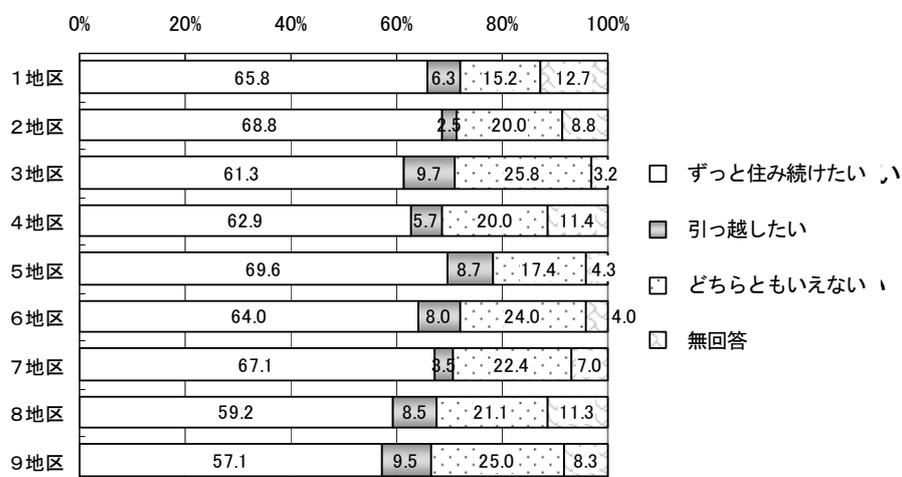
回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除く構成比 (%)
ずっと住み続けたい	404	63.7	69.4
引っ越したい	41	6.5	7.0
どちらともいえない	137	21.6	23.5
無回答	52	8.2	
合 計	634	100.0	582

年齢別の回答では、「ずっと住み続けたい」との回答は、30歳代以上のすべての年代で過半数を超える高い割合を示していますが、20歳代においては、「どちらともいえない」という回答が46.2%を占め、最も多くなっています。



地区別の回答では、いずれの地区も「ずっと住み続けたい」との回答が過半数を超えており、中でも“2地区”と“5地区”が約7割に達する高い割合を示しています。

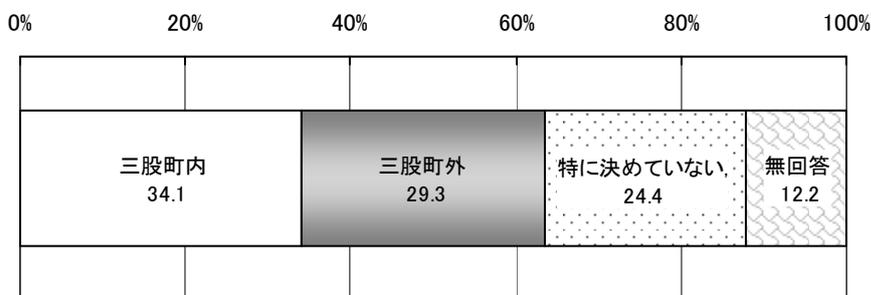
地区別の定住意向



(オ) 引っ越したいところ

(エ)で「引っ越したい」と回答した人に、引っ越したいところを尋ねたところ、「三股町内」が34.1%、「三股町外」が29.3%となっています。

引っ越したいところ



回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除く構成比 (%)
三股町内	14	34.1	38.9
三股町外	12	29.3	33.3
特に決めていない	10	24.4	27.8
無回答	5	12.2	
合計	41	100.0	36

都市名等	人数 (人)	都市名等	人数 (人)
都城市	4	海のある町	1
都城市又は宮崎市	1	県外	1
関東地方	1	無回答	2
京都・大阪方面	1		
福岡県	1	合計	10

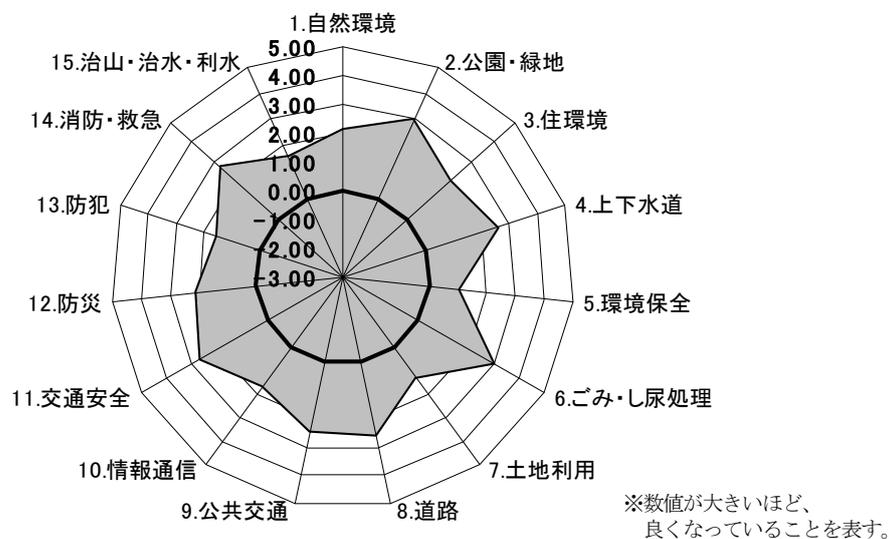
## キ 「自然と調和した快適な環境のまちづくり」

### (ア) 取り組みの評価

当分野の項目ごとの取り組みに対する評価は、下表に示すとおりです。

	大変良くなった	良くなった	どちらとも いえない	悪くなった	大変悪くなった	分からない	無回答	合計	改善度
1. 自然環境	3.6%	29.3%	46.4%	3.0%	0.8%	13.4%	3.5%	100%	2.13
2. 公園・緑地	5.8%	41.0%	35.6%	3.8%	0.6%	9.6%	3.5%	100%	2.99
3. 住環境	3.5%	26.5%	47.9%	4.6%	0.5%	12.5%	4.6%	100%	2.00
4. 上下水道	4.4%	37.2%	39.1%	3.3%	0.9%	12.1%	2.8%	100%	2.63
5. 環境保全	0.6%	14.7%	55.2%	2.1%	0.6%	21.5%	5.4%	100%	1.02
6. ごみ・し尿処理	5.8%	44.5%	34.9%	4.7%	1.1%	6.2%	2.8%	100%	3.01
7. 土地利用	1.4%	15.1%	47.8%	4.9%	0.5%	26.2%	4.1%	100%	1.28
8. 道路	4.1%	39.9%	38.0%	4.6%	1.3%	9.1%	3.0%	100%	2.64
9. 公共交通	5.7%	36.3%	34.9%	7.1%	2.7%	10.3%	3.2%	100%	2.51
10. 情報通信	1.7%	23.0%	46.5%	2.7%	0.8%	22.2%	3.0%	100%	1.69
11. 交通安全	4.3%	37.7%	39.6%	3.5%	0.5%	11.8%	2.7%	100%	2.68
12. 防災	3.6%	26.7%	46.4%	1.7%	0.8%	18.0%	2.8%	100%	2.05
13. 防犯	2.7%	19.9%	48.9%	5.2%	1.1%	18.8%	3.5%	100%	1.54
14. 消防・救急	4.9%	33.8%	39.6%	1.7%	0.3%	16.2%	3.5%	100%	2.68
15. 治山・治水・利水	2.2%	20.5%	45.3%	2.8%	0.8%	25.1%	3.3%	100%	1.66
全項目平均	3.6%	29.7%	43.1%	3.7%	0.9%	15.5%	3.4%	100%	2.17

### < 改善度レーダーチャート >



### 「改善度」の指標化について

“これまで進めてきた取組の評価”については、設問間の差や全体の水準を図るため、重みづけを行い指標化しました。重みづけの評点については、以下の方法で計算しています。

「大変良くなった」の回答数	×	10点	} の合計	「わからない」と 「無回答」を除く回答数
「良くなった」の回答数	×	5点		
「どちらともいえない」の回答数		0点		
「悪くなった」の回答数	×	-5点		
「大変悪くなった」の回答数	×	-10点		

したがって、改善度指数は、上限「10」（大変良くなった）、下限「-10」（大変悪くなった）で、中間値は「0」となります。

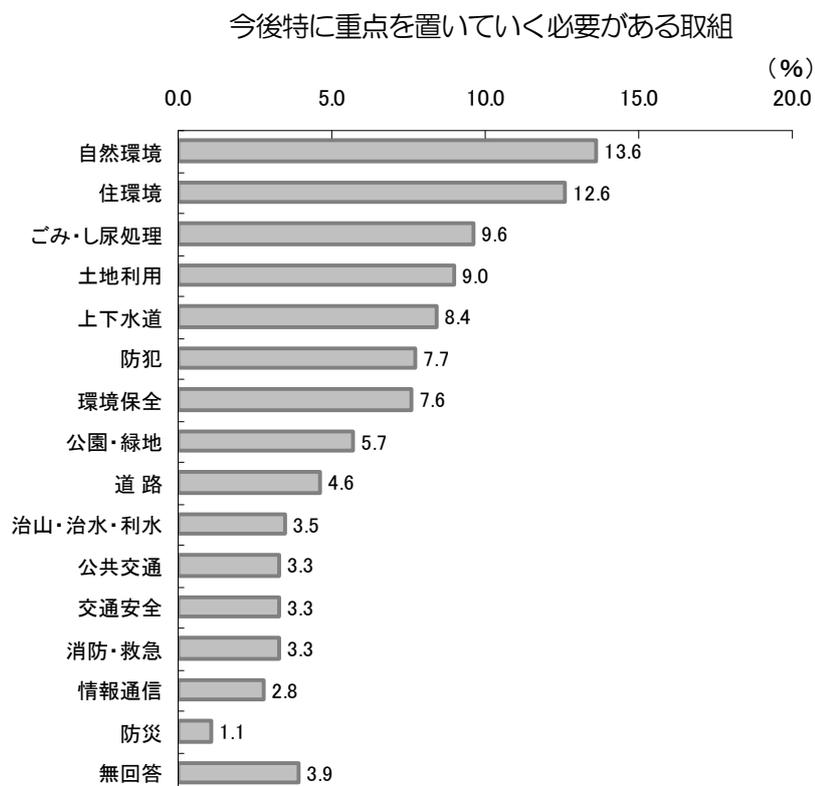
### < 改善度ランキング >

	項 目	改善度
1	ごみ・し尿処理	3.01
2	公園・緑地	2.99
3	消防・救急	2.68
4	交通安全	2.68
5	道 路	2.64
6	上下水道	2.63
7	公共交通	2.51
	全項目平均	2.17
8	自然環境	2.13
9	防 災	2.05
10	住 環 境	2.00
11	情報通信	1.69
12	治山・治水・利水	1.66
13	防 犯	1.54
14	土地利用	1.28
15	環境保全	1.02

- ・ 15 項目の改善度は 1.02 点から 3.01 点の間に分散しています。
- ・ 15 項目の改善度を平均すると、2.17 点となり、この平均値以上の項目は 7 項目で、「ごみ・し尿処理」3.01 点が最も高く、次いで「公園・緑地」（2.99 点）、「消防・救急」（2.68 点）が上位 3 項目となっています。
- ・ 平均値を下回っている項目は 15 項目で、「環境保全」（1.02 点）の改善度が最も低く、次いで「土地利用」（1.28 点）、「防犯」（1.54 点）が下位 3 項目となっています。

## (イ) 今後、重点的な取り組みが求められる分野

当分野において、今後特に重点を置いていく必要がある取り組みは「自然環境」(13.6%)と「住環境」(12.6%)が10%を超え、高い割合を示しています。



回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除く 構成比 (%)
自然環境	86	13.6	14.1
住環境	80	12.6	13.1
ごみ・し尿処理	61	9.6	10.0
土地利用	57	9.0	9.4
上下水道	53	8.4	8.7
防 犯	49	7.7	8.0
環境保全	48	7.6	7.9
公園・緑地	36	5.7	5.9
道 路	29	4.6	4.8
治山・治水・利水	22	3.5	3.6
公共交通	21	3.3	3.4
交通安全	21	3.3	3.4
消防・救急	21	3.3	3.4
情報通信	18	2.8	3.0
防 災	7	1.1	1.1
無 回 答	25	3.9	
合 計	634	100.0	609

(ウ) 当分野の取り組みにおいて、今不安を感じていること

今不安を感じていることについては、以下のような回答が寄せられています。

分野	今不安を感じていること
自然環境	・動物は野生化して不衛生（捨て猫）。
	・農業排水路が田植えの時期でもきれいにされていない箇所を見かけるので、川の両側の草刈りをしたら水の心配が少しでも良くなると思う。
	・森林が伐採されている。杉しかない。リサイクルが有効的に回ってない気がする。
	・昔は谷ごとに年中きれいな水が流れていてワサビ田がいっぱいあった。どこも杉を植えたために水が枯れ、ワサビ田が壊れてしまい国の施策が間違っていたと思う。今後、杉を切った後は、常緑樹を植えていくようお願いしたい。
	・手入れが十分されていない山や竹山等が多いと思う。
	・河川や公園の清掃を増やしてほしい。
	・まちから見えている山の木がなくなっていく様子は、自然が豊かといえない。
	・里山の手入れは、高齢者ではできない。
公園・緑地	・「花と緑と水の街」のキャッチフレーズを本当にそうだと思う取り組みがほしい。（河川の浄化、公園の整備、農業高校の花の活用等）
	・近くに公園があるが、子どもだけで遊ばせられない。声かけ事例や不審者が多すぎる。広報誌を利用して、町民に知らせるようにしてほしい。
	・宅地化が進み、代わりに緑が減った気がする。
	・河川プールなど施設の利用を行い、子どもたちのふれあいの場を作してほしい。
	・河川敷等、私が子どもの頃は、自然の遊ぶところがたくさんあったが、ここ最近は寂れて子どもはもちろん誰もいない気がする。
	・権八重公園はつつじの季節はとてもきれいに整備されているが、つつじのシーズンが無くなるとほっとらかしで残念。年間有効活用できる公園であってほしい。
	・公園、緑地は整備されているが、一部の人のみ利用できるようなかたちになってしまっている。
	・公園が頻繁に手入れされておらず、夏は雑草が伸びきって遊ぶ状態ではない。子どもの利用が減っているからかもしれないが、近くの公園でしか遊べない子どものことも考えてほしい。
	・公園が少ない。
	・公園など緑の場所は多いが、清掃、整備がされていない場所が見受けられる。
	・公園もこれといったものではないので利用者が少なく寂れていく。活性化を図るための企画がかえってイメージダウンにつながったりする点、物産館など町民の意見を取り入れてほしい。
	・公園緑地施設は良くなっている。
	・高城にある広い公園やドッグランがあればよいと思う。
	・高齢者の遊び場所を推進してほしい。
	・三股には上米公園というすばらしい名所があるにも関わらず、以前と比べ地域住民による奉仕作業等も少なくなり、もっときれいにすべきである。（特にトイレの利用、ゴミ捨てのマナーが悪い）。
	・子どもを安心して遊ばせる公園が少ない。
	・上米公園の管理をきちんとやってもらいたい。遊歩道も完成しているのにほっとらかしで歩けない。お金をかけたのにもったいない。
	・なぜ住宅密集地である植木地区の下水道整備が遅れているのか。早急な整備を要求する。
	・稗田公園や東原の公園等、よく荒れている姿がみられる。草が茫々でちょっと立ち寄る気分になれないときがある。
	・緑が少なくなっているように感じるし、公園等も汚いところときれいな所の差がありすぎる。

分野	今不安を感じていること
住環境	・ 現在健康だがスーパーが遠すぎる。
	・ 公営住宅は新築されているものの、まだ古い長屋があり、空いている所が多い。税金の関係もあるので、空き家の処分等を考えてほしい。
	・ 高齢者が多い集落の過疎化が問題。田舎の小学校をつぶして統廃合しないでほしい。小学校がなくなると集落がなくなるから。
	・ 住宅地域と過疎地域の町民意識の相違がみられる。
	・ 町部と山間地の格差がみられる。
	・ 町営住宅を整理して土地の再利用や建替えなどを考えてほしい。
	・ 町の奥地の方にも目を向けてほしい。
	・ 人口の多い地区に力を入れて、山間部は人口減。皆分かっているのに手を付けられない。予算は人口の多いところに回っていく。何年後かに結果が出るだろう。そのときは取り返しがつかない。
	・ 長田地区の人口減少が問題。
	・ 老人2人だけの生活になることの不安。
	・ 買い物が不便。
・ 公営住宅の立替を早急にしてほしい。	
環境保全	・ 私の住んでいるところは川や溝はないが、夏場は蚊が多くて困る。歩道の木にも蚊が群れている。下水道の関係なのか。
	・ 環境問題をもう少し考えた取り組みを行い、快適なまちづくりが必要。
	・ 環境浄化への意識の高揚と実践のために一人ひとりが心がけるようにしていかなければ町は良くならない。
	・ 家畜のし尿処理の徹底。
	・ 今一番心配することは畜産関係のし尿処理である。春先になると畑に撒いたし尿の臭いで困っている。
	・ 自然が豊かで住みよい三股にすること。畑や庭等で煙を出さないこと。風呂などガス電気に変えること。
	・ 条例でゴミを焼かないようになっているにも関わらず、ゴム製品を焼くような人までいる。町民一人ひとりが環境を守ることを考えず、分別せずに捨てる人や自分勝手な人がいる限り何も変わらない。
	・ 選挙のときの看板がいつまでも立ててあるので、片付けてほしい。
	・ 町は、太陽光の活用推進に助成金を出してほしい。
	・ 地球温暖化防止対策の推進。
土地利用	・ 計画的な土地利用と住宅地の用途混在の解消。
	・ 広い土地があるのに有効活用されていない。高原町のように広く土地活用し、皆が集まる場所を作れば町も活性化すると思う。町民の声を聞いて色んな物を作ってほしい
	・ 荒地が目立っており、企業誘致等の有効利用に取り組む必要があるのではないか。
	・ 今市から梶山までの河川をゴルフ場に。
	・ 山林、田畑、河川の維持管理が必要。
	・ 私の住んでいる近辺は、最近建物が建ち始め、部屋から見える風景も変わってしまった。その分、自然は失われるので、緑とのバランスをとって行って貰いたい。少しでも緑があれば冷たい印象を受けずにすむ。

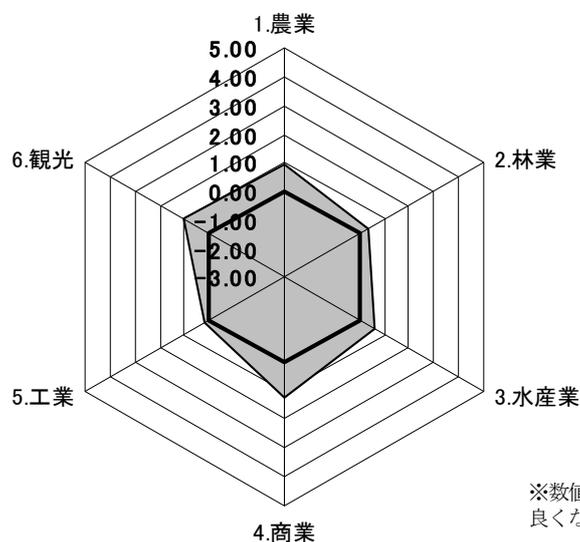
## ク 「活力にあふれる産業のまちづくり」

### (ア) 取り組みの評価

当分野の項目ごとの取り組みに対する評価は、下表に示すとおりです。

	大変良くなった	良くなった	どちらとも いえない	悪くなった	大変悪くなった	分からない	無回答	合計	改善度
1. 農 業	0.3%	10.9%	42.3%	9.0%	0.6%	32.8%	4.1%	100%	0.94
2. 林 業	0.2%	3.8%	38.5%	11.5%	1.1%	39.6%	5.4%	100%	0.37
3. 水 産 業	0.3%	5.5%	38.2%	8.2%	0.6%	42.0%	5.2%	100%	0.60
4. 商 業	1.3%	17.7%	40.5%	12.8%	2.2%	20.2%	5.4%	100%	1.22
5. 工 業	0.2%	3.8%	42.6%	11.8%	1.7%	34.5%	5.4%	100%	0.24
6. 観 光	1.1%	14.2%	42.9%	10.6%	1.4%	24.9%	4.9%	100%	1.11
全項目平均	0.6%	9.3%	40.8%	10.6%	1.3%	32.3%	5.0%	100%	0.75

### < 改善度レーダーチャート >



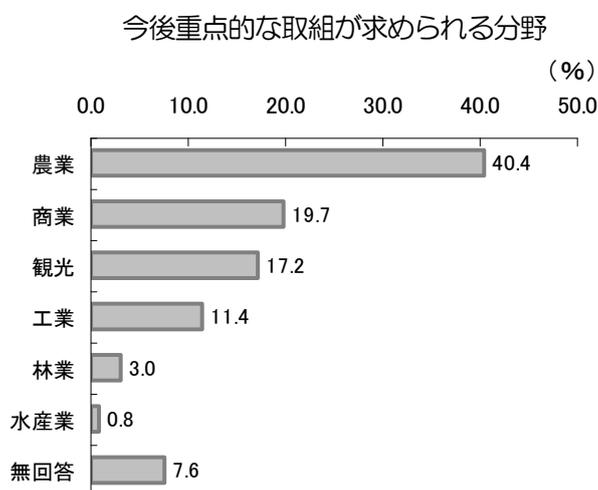
< 改善度ランキング >

	項 目	改善度
1	商 業	1.22
2	観 光	1.11
3	農 業	0.94
全項目平均		0.75
4	水 産 業	0.60
5	林 業	0.37
6	工 業	0.24

- ・ 6項目の改善度は0.24点から1.22点の間に分散しています。
- ・ 6項目の改善度を平均すると、0.75点となり、この平均値以上の項目は3項目で、「商業」1.22点が最も高く、次いで「観光」（1.11点）、「農業」（0.94点）となっています。
- ・ 平均値を下回っている項目は3項目で、「工業」（0.24点）の改善度が最も低く、次いで「林業」（0.37点）、「水産業」（0.60点）となっています。

(イ) 今後、重点的な取り組みが求められる分野

当分野において、今後重点的な取り組みが求められる分野は「農業」が40.4%を占め最も高く、次いで「商業」（19.7%）となっています。



回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除く 構成比 (%)
農 業	256	40.4	43.7
商 業	125	19.7	21.3
観 光	109	17.2	18.6
工 業	72	11.4	12.3
林 業	19	3.0	3.2
水産業	5	0.8	0.9
無 回 答	48	7.6	
合 計	634	100.0	586

### (ウ) 当分野の取り組みにおいて、今不安を感じていること

今不安を感じていることについては、以下のような回答が寄せられています。

分 野	今不安を感じていること
農 業	・農業の後継者不足 (13人)
	・農業をする人が高齢化して将来が不安。(3人)
	・農地の荒地化や喪失。(3人)
	・農業後継者の育成と担い手の育成が重要。(3人)
	・農業の振興。(3人)
	・農業はどうなっていくのだろうか不安。
	・日本の農業の自給率をあげていかなければならないと思う。
	・高齢化が進み、農林業もどのように取り組んでよいか分からない。
	・集団農営の推進。
	・町全体での有機農法推進による環境保全型農業への取り組み。
	・有機な農業で作物を作り、遺伝子組換え作物は作らないことに重点を移すべきである。
	・休耕地が年々増している。タバコ作りなどが激減している。
	・今後10年経ったとき農家がいるのか。
	・地産地消のため、安全な農産物・加工食品が見られない。
	・近い将来、食料難が必ず訪れるため、食料の確保が重要。米・中・EU等が食料を輸出しなくなるため。
	・輸入に頼らない安心・安全な農業の生産活動の推進。
	・これからも食べる物に困らないようにしてもらいたい。子ども世代にも安定した流通を望む。
	・地域農業は回復できるのか。
	・補助だけ増え、指導が足りない気がする。
	・農地の商工業化。
・食に対する危機感。	
・農産物・肉畜価格の低迷。	
・畜産県である宮崎県の中で、都城地域は特に力を入れるべきであるのだが、畜産振興について今まで以上に取り組んでもらえるかどうか不安。	

分野	今不安を感じていること
林業	・山の有効活用をしていない（植林等）。
	・林業の衰退。
	・里山の活用。
	・農林業の担い手、後継者問題。
	・山林を積極的に活用したまちづくり、例えば森林セラピー基地や森林イベント他。
	・林業、木材の安価がいつまで続くのかと感じている。
	・木材価格の低迷。
商業	・役場近くに店があまりない。
	・住みよい町だが商店、スーパー等、仕事場が少ない。
	・貸事務所に借りる人がいないところもある。デフレが進行している。
	・集客が得られるような大型店舗が少ない。
	・町外からの客寄せができる商店街の形成を図ること。
	・子どもが喜ぶような娯楽や施設が少なく、人を呼び込もうとする意欲が感じられない。
	・店が少ない、大型店舗の誘致。
	・三股に人が寄る店を。
	・中心部に元気がない。
	・中心商店街の活性化（高齢者が町内で買い物ができるようにする）。
	・三股町駅周辺の再開発。
	・みまたんというフレーズで、人の集まるまちとして三股駅周辺を活気付けてほしい。
	・商業施設の充実。
	・この不景気は三股町でどうにかなるものではないが、何らかのアクションはとってほしい。
・パチンコ屋が多すぎる。	
工業	・優良企業の誘致にもっと力を入れてほしい。（8人）
	・安心して働ける企業の育成。
	・工場跡地が目立つのでどうにかならないのか。
	・雇用を生み出す人が町政をすべき。
	・若い人達の働く場所をもっと増やしてほしい。
	・工場入らない。
	・大型企業がないことで、雇用の安定性という不安がある。
	・個人経営の人の仕事がなく苦しんでいるように思える。今の不況に直接影響を受ける人は多いと思う。
	・工農連携政策、地域団体商標等で高度付加価値産業に基づいた成長戦略の具体像が見えないのではないか。
	・若者の雇用につながる企業がないため、高齢化が進んでいる。
・働きたくても仕事場がない。	
観光	・他の町村にない特産品や目玉商品を開発できたら良いと思う。（4人）
	・これといった観光の目玉がない。
	・1次・2次産業と連携した観光の振興。
	・他のまちからも来なくなる様な町全体のイベント、祭りがほしい。
	・観光、買い物等、華やかで核となるものがない。
	・商業、農業で活力ある町に。

分野	今不安を感じていること
観光	・新しくできた物産館は場所が悪く、物足らずもう一度寄りたい気が湧かない。
	・行事や観光、祭りなど、もっと工夫して自然と耳に入ってくるPRを考えてほしい。活力ある町になってほしい。
	・とてもいい地域なので大きな遊び場がほしい。
	・綾、国富、串間、北郷等町あげて取り組んでいる姿が見えるが、三股は何も見えない。何が有名かも分からない。
	・特に、観光地として他の地域の人に来るまでのものはないと思う。
	・物産館をどうにかしてほしい。
	・駅前物産館を文化会館の一角に移したら、町外の人を買ってくれると思う。
	・観光資源の開発を進めてほしい。
	・これといった観光名所がない。上米公園ももう少し知名度が上がるようにしてほしい（例えば四季に催し物を）。
	・1年を通しての観光拠点がないこと、4月上米桜、5月つつじ祭の後はさっぱり。
	・特産品を開発を高等教育機関と連携し、積極的に取り組んでほしい。
	・もっと三股で作られるものをアピールしてほしい。
	・特産品が少ない。
	・観光PRするところがあるか。
・最近“ん”のつく町でPRしており、それ自体はとてもいいことだ。しかし、なんでもかんでも“ん”を付ければいいというものではないと思う。三股駅、その周辺がきれいになったことは嬉しいが、「みまた“ん”駅」は私個人的には嫌いである。もう少し中身のあることをした方がよいと思う。	

## (2) 今後のまちづくりの重要度について

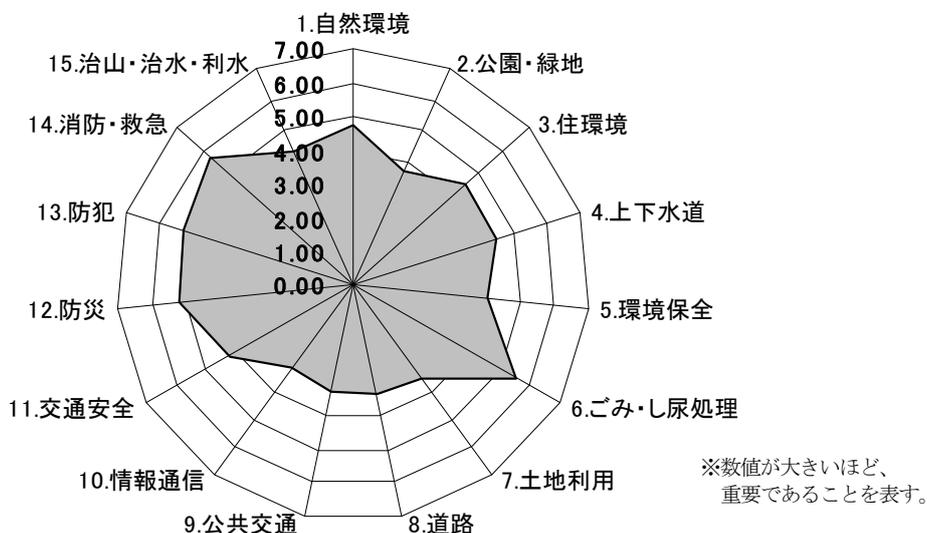
### ア 「自然と調和した快適な環境のまちづくり」

#### (ア) 取り組みの重要度

当分野の項目ごとの取り組みの重要度は、下表に示すようになっています。

	大変重要	重要	どちらとも いえない	それほど 重要でない	全く重要 でない	分からない	無回答	合計	重要度
1. 自然環境	17.2%	49.8%	19.1%	2.2%	0.3%	4.3%	7.1%	100%	4.73
2. 公園・緑地	9.8%	46.1%	23.8%	9.8%	0.3%	2.7%	7.6%	100%	3.72
3. 住環境	16.2%	48.3%	21.5%	3.3%	0.3%	3.6%	6.8%	100%	4.50
4. 上下水道	14.2%	50.2%	20.7%	2.7%	0.5%	3.9%	7.9%	100%	4.42
5. 環境保全	12.8%	43.7%	26.7%	3.2%	0.5%	5.8%	7.4%	100%	3.96
6. ごみ・し尿処理	26.2%	47.8%	13.7%	1.7%	0.2%	3.3%	7.1%	100%	5.58
7. 土地利用	11.5%	35.0%	30.6%	5.7%	0.9%	7.9%	8.4%	100%	3.41
8. 道路	10.7%	36.9%	29.8%	9.8%	1.1%	3.6%	8.0%	100%	3.28
9. 公共交通	11.7%	33.3%	31.9%	9.5%	1.1%	4.9%	7.7%	100%	3.21
10. 情報通信	7.9%	35.5%	32.5%	7.3%	0.8%	8.2%	7.9%	100%	3.04
11. 交通安全	13.1%	48.4%	22.4%	4.1%	0.5%	4.1%	7.4%	100%	4.20
12. 防災	19.4%	53.0%	15.3%	2.1%	0.2%	3.2%	6.9%	100%	5.10
13. 防犯	21.1%	51.7%	14.2%	2.1%	0.2%	3.2%	7.6%	100%	5.26
14. 消防・救急	25.7%	49.2%	12.9%	1.1%	0.0%	3.2%	7.9%	100%	5.66
15. 治山・治水・利水	15.6%	44.6%	24.8%	1.9%	0.2%	5.7%	7.3%	100%	4.35
全項目平均	15.5%	44.9%	22.6%	4.4%	0.5%	4.5%	7.5%	100%	4.29

< 重要度レーダーチャート >



### 「重要度」の指標化について

“取り組み項目の重要度”については、設問間の差や全体の水準を図るため、重みづけを行い指標化しました。重みづけの評点については、以下の方法で計算しています。

「大変重要」の回答数	×	10点	}	の合計	「わからない」と 「無回答」を除く回答数
「重要」の回答数	×	5点			
「どちらともいえない」の回答数	×	0点			
「それほど重要でない」の回答数	×	-5点			
「全く重要でない」の回答数	×	-10点			

したがって、重要度指数は、上限「10」（大変重要）、下限「-10」（全く重要でない）で、中間値は「0」となります。

### < 重要度ランキング >

	項 目	重要度
1	消防・救急	5.66
2	ごみ・し尿処理	5.58
3	防犯	5.26
4	防災	5.10
5	自然環境	4.73
6	住環境	4.50
7	上下水道	4.42
8	治山・治水・利水	4.35
全項目平均		4.29
9	交通安全	4.20
10	環境保全	3.96
11	公園・緑地	3.72
12	土地利用	3.41
13	道路	3.28
14	公共交通	3.21
15	情報通信	3.04

- ・ 15項目の重要度は3.04点から5.66点の間に分散しています。
- ・ 15項目の重要度を平均すると、4.29点となり、この平均値以上の項目は8項目で、「消防・救急」5.66点が最も高く、次いで「ごみ・し尿処理」（5.58点）、「防犯」（5.26点）が上位3項目となっています。
- ・ 平均値を下回っている項目は7項目で、「情報通信」（3.04点）の重要度が最も低く、次いで「公共交通」（3.21点）、「道路」（3.28点）が下位3項目となっています。

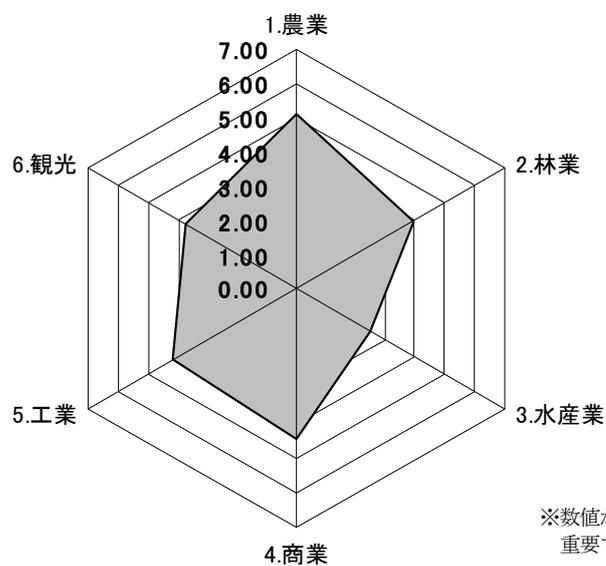
## イ 「活力にあふれる産業のまちづくり」

### (ア) 取り組みの重要度

当分野の項目ごとの取り組みの重要度は、下表に示すようになっています。

	大変重要	重要	どちらとも いえない	それほど 重要でない	全く重要 でない	分からない	無回答	合計	重要度
1. 農 業	20.3%	43.2%	17.8%	1.3%	0.0%	10.1%	7.3%	100%	5.08
2. 林 業	11.7%	38.2%	27.0%	1.9%	0.2%	13.7%	7.4%	100%	3.89
3. 水 産 業	6.0%	26.7%	35.6%	5.2%	1.4%	17.0%	8.0%	100%	2.45
4. 商 業	13.1%	46.7%	21.0%	2.1%	0.2%	9.5%	7.6%	100%	4.39
5. 工 業	13.4%	41.0%	23.3%	1.4%	0.8%	11.7%	8.4%	100%	4.15
6. 観 光	12.8%	36.6%	26.0%	6.8%	0.9%	8.8%	8.0%	100%	3.70
全項目平均	12.9%	38.7%	25.1%	3.1%	0.6%	11.8%	7.8%	100%	3.94

#### < 重要度レーダーチャート >



< 重要度ランキング >

	項 目	重要度
1	農 業	5.08
2	商 業	4.39
3	工 業	4.15
全項目平均		3.94
4	林 業	3.89
5	観 光	3.70
6	水 産 業	2.45

- ・ 6項目の重要度は2.45点から5.08点の間に分散しています。
- ・ 6項目の重要度を平均すると、3.94点となり、この平均値以上の項目は3項目で、「農業」5.08点が最も高く、次いで「商業」（4.39点）、「工業」（4.15点）となっています。
- ・ 平均値を下回っている項目は3項目で、「水産業」（2.45点）の重要度が最も低く、次いで「観光」（3.70点）、「林業」（3.89点）となっています。

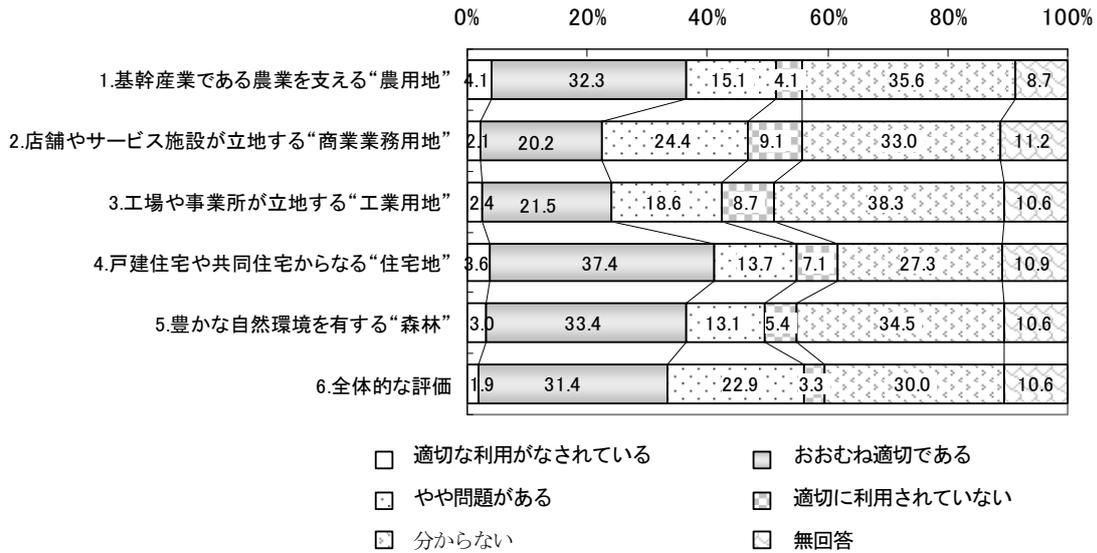
### (3) 三股町の土地利用について

#### ア 土地利用に対する評価

三股町の各種土地利用に対する評価については、「わからない」との回答が30～40%を占めており、それを除くと「商業業務用地」、「工業用地」以外は、「おおむね適切である」との回答が多くを占めています。

“商業業務用地”については、「やや問題がある」が24.4%、「おおむね適切である」が20.2%という結果になっています。

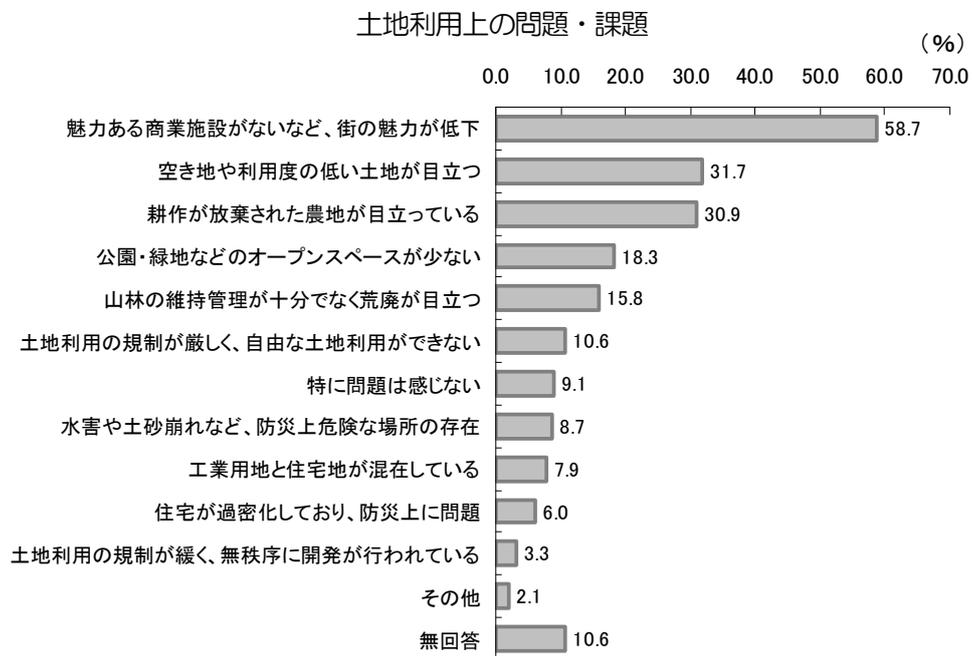
土地利用に対する評価



上段：回答数 下段：構成比 (%)	適切な利用がなされている	おおむね適切である	やや問題がある	適切に利用されていない	分からない	無回答	合計
1. 基幹産業である農業を支える“農用地”	26 (4.1)	205 (32.3)	96 (15.1)	26 (4.1)	226 (35.6)	55 (8.7)	634 (100)
2. 店舗やサービス施設が立地する“商業業務用地”	13 (2.1)	128 (20.2)	155 (24.4)	58 (9.1)	209 (33.0)	71 (11.2)	634 (100)
3. 工場や事業所が立地する“工業用地”	15 (2.4)	136 (21.5)	118 (18.6)	55 (8.7)	243 (38.3)	67 (10.6)	634 (100)
4. 戸建住宅や共同住宅からなる“住宅地”	23 (3.6)	237 (37.4)	87 (13.7)	45 (7.1)	173 (27.3)	69 (10.9)	634 (100)
5. 豊かな自然環境を有する“森林”	19 (3.0)	212 (33.4)	83 (13.1)	34 (5.4)	219 (34.5)	67 (10.6)	634 (100)
6. 全体的な評価	12 (1.9)	199 (31.4)	145 (22.9)	21 (3.3)	190 (30.0)	67 (10.6)	634 (100)

## イ 三股町の土地利用上の問題・課題

本町の土地利用上の問題・課題では、「魅力ある商業施設がないなど、街の魅力が低下している」が58.7%を占め最も多く、次いで「市街地に空き地や利用度の低い土地が目立つ」、「耕作が放棄された農地が目立っている」の順となっています。



回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除く構成比 (%)
魅力ある商業施設がないなど、街の魅力が低下している	372	58.7	65.6
市街地に空き地や利用度の低い土地が目立つ	201	31.7	35.4
耕作が放棄された農地が目立っている	196	30.9	34.6
市街地に道路や公園・緑地などのオープンスペースが少ない	116	18.3	20.5
山林の維持管理が十分でなく荒廃が目立っている	100	15.8	17.6
土地利用の規制が厳しく、自由な土地利用ができない	67	10.6	11.8
特に問題は感じない	58	9.1	10.2
水害や土砂崩れなど、防災上危険な場所が存在している	55	8.7	9.7
工業用地と住宅地が混在している地区がみられる	50	7.9	8.8
住宅が過密化しており、防災上に問題がある	38	6.0	6.7
土地利用の規制が緩く、無秩序に開発が行われている	21	3.3	3.7
その他	13	2.1	2.3
無回答	67	10.6	
合 計	634	100.0	567

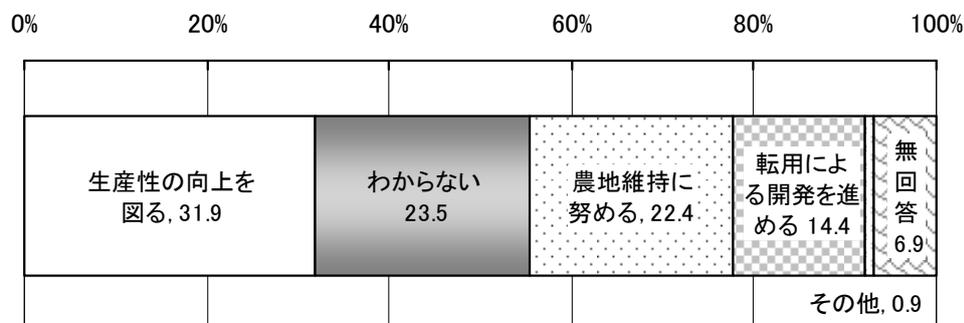
その他の回答	人数 (人)
どのような土地利用を行っているか知らない	1
河川プール、山林、川の水量	1
都城に近いところだけ団地ができ発展し、三股小学校・中学付近は駄目になっている	1
車庫証明なしで住めるのは楽だが、路駐をしている人がいる。公共道路の適正利用が課題	1
駅前の物産館のアピールが足りない	1
町道等が私人に使用されている箇所がある	1
防災機能の強化、災害時に対応力のある防災面に配慮した土地利用	1
どこが商業・工業地なのか分からないのが問題	1
無回答	5
合 計	13

## ウ 今後の土地利用の方向性

### (ア) 農用地

農用地の土地利用の方向性については、「生産性の向上を図る」が31.9%を占め最も多くなっています。

農用地の土地利用の方向性



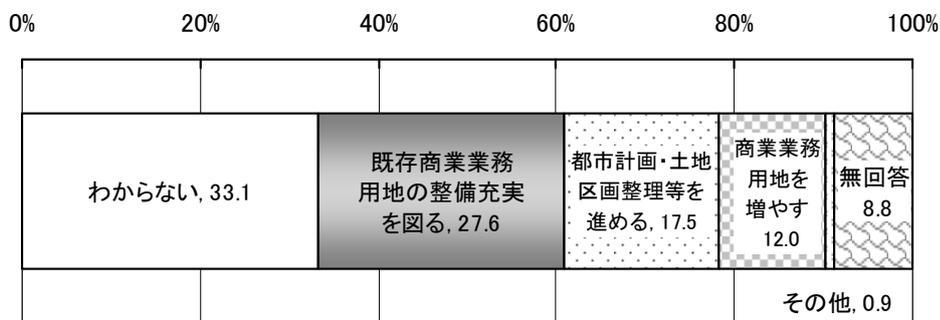
回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除く構成比 (%)
生産性の向上を図る	202	31.9	34.2
分からない	149	23.5	25.3
農地維持に努める	142	22.4	24.1
低生産農地の転用により開発を進める	91	14.4	15.4
その他	6	0.9	1.0
無回答	44	6.9	
合計	634	100.0	590

その他の回答	人数 (人)
農地の利用がどのように行えるか知らない	1
集積を図り、耕作しやすい農地にする	1
採算の取れる品質改良を進める	1
使われていない農地は、小・中・高生の授業等で利用してもらう	1
無回答	2
合計	6

## (イ) 商業業務用地

商業業務用地の土地利用の方向性については、「わからない」が33.1%を占め最も多く、次いで「既存商業業務用地の整備充実を図る」が27.6%を占めています。

商業業務用地の土地利用の方向性



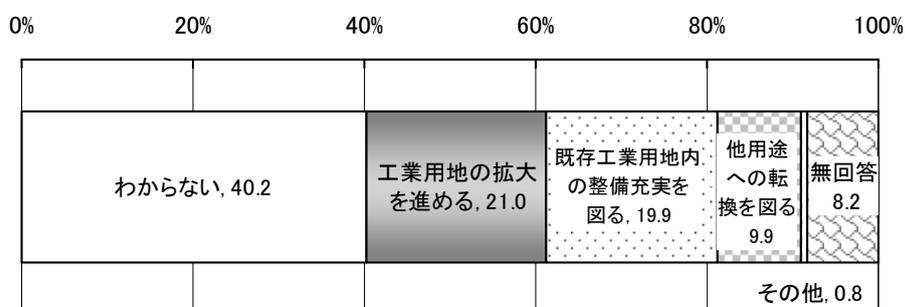
回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除く構成比 (%)
分からない	210	33.1	36.3
既存商業業務用地の整備充実を図る	175	27.6	30.3
都市計画・土地区画整理等を進める	111	17.5	19.2
商業業務用地を増やす	76	12.0	13.1
その他	6	0.9	1.0
無回答	56	8.8	
合計	634	100.0	578

その他の回答	人数 (人)
農地の現状維持	1
都城市にイオン等の大きな店舗があるので三股は今のままでよい	1
個性と伝統を重視するまちづくり	1
無回答	3
合計	6

## (ウ) 工業用地

工業用地の土地利用の方向性については、「わからない」が40.2%を占め最も多く、次いで「工業用地の拡大を進める」が21.0%、「既存工業用地内の整備充実を図る」が19.9%となっています。

工業用地の土地利用の方向性

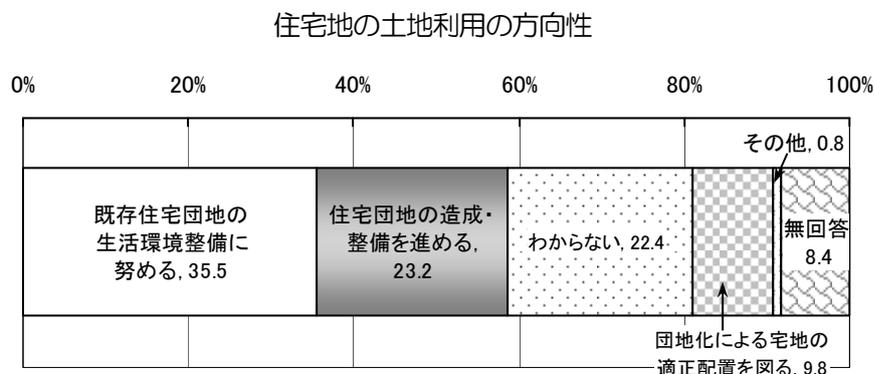


回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除く構成比 (%)
分からない	255	40.2	43.8
工業用地の拡大を進める	133	21.0	22.9
既存工業用地内の整備充実を図る	126	19.9	21.6
他用途への転換を図る	63	9.9	10.8
その他	5	0.8	0.9
無回答	52	8.2	
合計	634	100.0	582

その他の回答	人数 (人)
農地の現状維持	1
企業誘致	1
無回答	3
合計	5

## (工) 住宅地

住宅地の土地利用の方向性については、「既存住宅団地の生活環境整備に努める」が35.5%を占め最も多く、次いで「住宅団地の造成・整備を進める」が23.2%となっています。

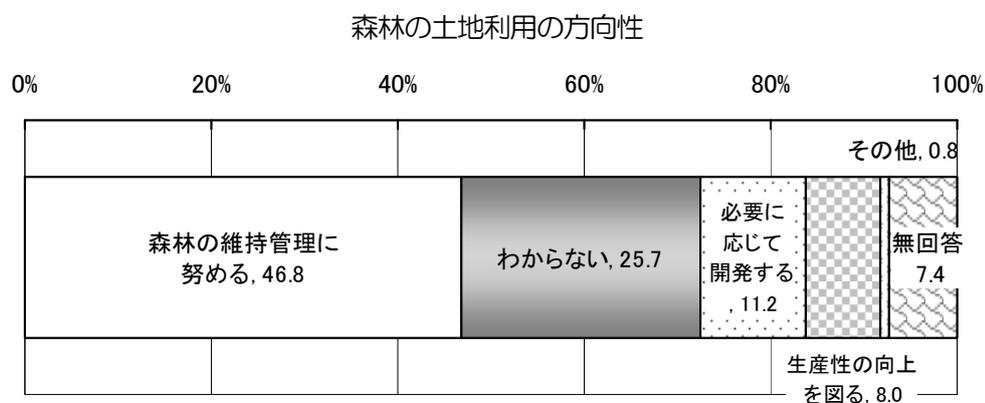


回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除く構成比 (%)
既存住宅団地の生活環境整備に努める	225	35.5	38.7
住宅団地の造成・整備を進める	147	23.2	25.3
分からない	142	22.4	24.4
団地化による宅地の適正配置を図る	62	9.8	10.7
その他	5	0.8	0.9
無回答	53	8.4	
合 計	634	100.0	581

その他の回答	人数 (人)
五本松住宅の建替え	1
現状維持	1
税金で町営住宅をあまり作らないこと	1
太陽光を利用した老人が快適に暮らせる住宅建設	1
無回答	1
合 計	5

## (オ) 森林

森林の土地利用の方向性については、「森林の維持管理に努める」が46.8%を占め最も多くなっています。



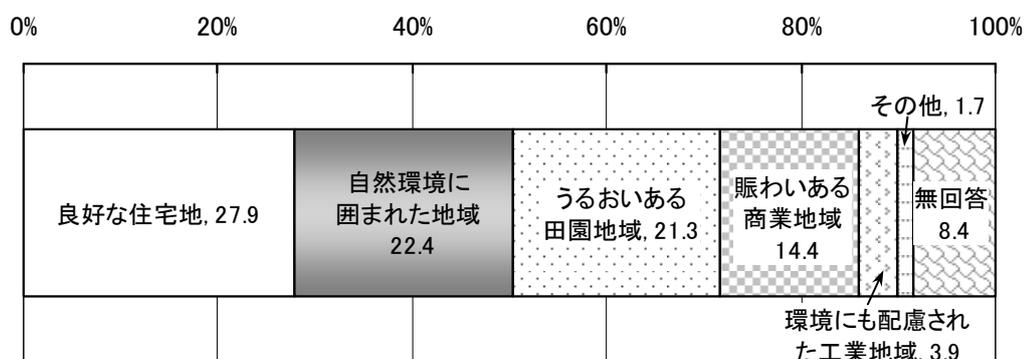
回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除く構成比 (%)
森林の維持管理に努める	297	46.8	50.6
分からない	163	25.7	27.8
必要に応じて開発する	71	11.2	12.1
生産性の向上を図る	51	8.0	8.7
その他	5	0.8	0.9
無回答	47	7.4	
合計	634	100.0	587

その他の回答	人数 (人)
さらなる植林による高付加価値化	1
雑木林づくりを進める	1
無回答	1
合計	5

## オ 居住地域の将来の土地利用イメージ

居住地域の将来の土地利用イメージは、「戸建住宅や共同住宅を中心とした良好な住宅地」が27.9%、「森林や河川など豊かな自然環境に囲まれた地域」が22.4%、「農地と集落が一体となったうるおいある田園地域」が21.3%となっています。

居住地域の将来の土地利用イメージ

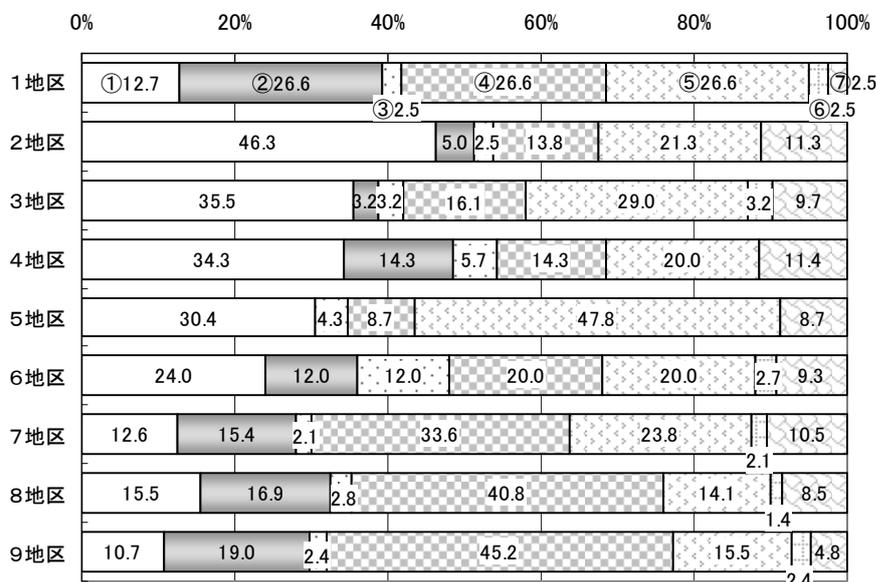


回答項目	回答数	構成比 (%)	無回答を除く構成比 (%)
戸建住宅や共同住宅を中心とした良好な住宅地	177	27.9	30.5
森林や河川など豊かな自然環境に囲まれた地域	142	22.4	24.4
農地と集落が一体となったうるおいある田園地域	135	21.3	23.2
店舗やサービス施設が集積している賑わいある商業地域	91	14.4	15.7
事業所や工場が多く立地する環境にも配慮された工業地域	25	3.9	4.3
その他	11	1.7	1.9
無回答	53	8.4	
合計	634	100.0	581

その他の回答	人数 (人)
土地利用のイメージがわからない	1
項目1と5は切り離しては考えられない	1
今のままで良いが下水道、道路などいつも整備されてほしい	1
商・工・農それぞれが均等に混在する地域	1
現状維持が良い	1
バランスのとれた土地利用	1
無回答	5
合計	11

また、居住地区別の将来の土地利用イメージについては、下のグラフに示すようになっており、これを整理すると以下のとおりとなります。

居住地区別の将来の土地利用イメージ



- ① 農地と集落が一体となったうるおいある田園地域
- ② 店舗やサービス施設が集積している賑わいある商業地域
- ③ 事業所や工場が多く立地する環境にも配慮された工業地域
- ④ 戸建住宅や共同住宅を中心とした良好な住宅地
- ⑤ 森林や河川など豊かな自然環境に囲まれた地域
- ⑥ その他
- ⑦ 無回答



地区名	将来の土地利用イメージ
1地区	賑わいある商業地域、良好な住宅地、自然環境に囲まれた地域
2地区	うるおいある田園地域
3地区	うるおいある田園地域、自然環境に囲まれた地域
4地区	うるおいある田園地域
5地区	自然環境に囲まれた地域
6地区	賑わいある商業地域、良好な住宅地、自然環境に囲まれた地域
7地区	良好な住宅地
8地区	良好な住宅地
9地区	良好な住宅地

分野	今不安を感じていること
土地利用	・守ろうとすることが自然破壊にならないか。
	・住宅周辺に遊休農地が多くみられるので、有効活用できないか。有効な土地利用を図ってほしい。
	・三股は自然が十分にあるので、自然を活かした環境づくりを行う。
	・すべての箱物施設が一極集中しているように思われる。近くの町民のみが恩恵に欲している嫌いがある。
	・多くの施設を建てることで森林伐採等の自然破壊が行われることは賛成できない。
	・町内の中小企業は衰退し、大資本の一人勝ちである。
	・田畑が少なくなってきた。
	・田畑を遊ばせているところを見かける。有効利用できないものかと思う。
道路	・県道、町道の両脇の草刈りを徹底し、歩道と車道の区別をしてほしい
	・町道ならすぐ直してくれるが、住宅地でも道路の悪いところは私道だからと直してくれない。意見を聞いてほしい。
	・長田地域には危険な場所多く、特に散策歩道の整備が必要。
	・道路が悪い。道路工事が多いので不便。予定期間内に終わらせてほしい。
	・道路が狭いのにふたが無いところがあり危ない。
公共交通	・構造に問題があるのか、駅舎は利便性に欠ける。巡回バスは、将来的にも運行を継続していけるか。
	・可能な限り自然を残してほしい。ゴルフ場の建設等反対。自然林や里山を残す。
	・交通の便が悪い。バスを運行してほしい。
	・高齢化していくので、公共交通の充実に取り組んでほしい。
安全交通	・学校・病院等があり、住むには良い環境と思っていたが、最近車の多さに不安である。大型トラック等の音にも悩まされる。時間とかの車の規制があった方がよい。
	・通学途中になかなか道路を渡れない中学生をよく見かける。信号等の交通安全施設の整備が必要である。
防災	・防災時のライフラインの確保は十分に準備、検討すべきだと思う。
	・台風時に道路に水があふれて通りにくい所がある。特に墓地の1支部のところ。
	・大雨時、増水する所がある。排水対策をしているはずだが少々不安。
	・防災知識の普及が無い。
救急・消防	・土日・祝日の救急体制の充実をお願いしたい。
	・大雨や台風時の救急体制強化に取り組んでほしい。
治山・治水・利水	・山林で植林が完全でないこと、沖水川の水量が少ないこと。
	・材木の搬出は機械によるところが多いが、大雨により土砂流出が多いので危険。
	・長田、梶山宮村地区は山崩れが多すぎる。
	・鱈塚山系の木がなくなっている所は崖崩れの危険性がある。
	・山間部に住んでいる年寄りや、ため池近くに住んでいる町民の防災対策が必要。
	・山林が荒れていると思う。昔は枝打ちが山を良くしたが、今は高齢化により枝打ちがいない。災害等でこのままでは山は荒れ秃げ山になる。昔のように美しい山の戻すことが重要だと思う。
	・水が作業道流れ、大きな災害が近年起きている。また、伐採地に広葉樹を植林するように、町は指導・助成はできないのか。それが治山・治水につながると思う。
	・自然災害に対する取り組みの推進。植林の推進。
・集中して雨の降る時期に水はけの良い場所と悪い場所が分かっているはずなのに、改善されていないのはなぜか。雨水排水対策事業の推進に力を入れてほしい。	

分野	今不安を感じていること
治山・治水・利水	・植林活動を推進して、禿山が無いようにしてもらいたい。(2人)
	・森林伐採が進み山肌が見え、山の採石のため変形し、治水が不安。沖水川の上流でもある河川プールは水害のため、放置されたまま。県の事業かもしれないが町も考えてほしい。
	・町の危険地域に指定されているが、自宅周辺の土砂等の工事が進んでいない。
	・畑の道路の方の排水溝整備に取り組んで頂きたい。
	・植林活動は温暖化防止のために必要と思う。
	・防砂体制は十分取り組まれているか、今まで以上強化されているか。
	・杉伐採後は直ちに植林をして、山の保水能力を維持すること。河川のコンクリート化には反対である。

## 5 三股町総合計画（国土利用計画）審議会設置条例

昭和46年2月26日  
条例第2号

改正 昭和55年3月28日 条例第9号 平成元年9月29日 条例第20号  
昭和55年7月14日 条例第17号 平成17年3月22日 条例第1号

(趣旨)

第1条 この条例は地方自治法（昭和22年法律第67号）第138条の4第3項の規定に基づき、三股町総合計画審議会の設置、組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 町長の諮問に応じ、本町総合計画に関し必要な事項を調査及び審議させるため、三股町総合計画審議会（以下「審議会」という。）を置く。

(組織)

第3条 審議会は委員20人以内で組織する。

2 委員は次の各号に掲げる者のうちから、町長が委嘱する。

- (1) 関係行政機関の役員
- (2) 町の区域内の公共的団体等の役職員
- (3) 知識経験者
- (4) 町議会議員

(委員の任期)

第4条 委員の任期は当該諮問に係る審議会が終了したときまでとする。

(会長)

第5条 審議会に会長を置き、委員の互選によって、これを定める。

2 会長は審議会を代表し、会務を総理する。

3 会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長の指定する委員がその職務を代理する。

(会議)

第6条 審議会は会長が招集する。

2 会長は審議会の議長となる。

3 審議会は委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。

(幹事)

第7条 審議会に幹事若干名を置く。

2 幹事は町職員のうちから町長が任命する。

3 幹事は会長の命を受け審議に必要な事項について調査する。

(庶務)

第8条 審議会の庶務は総務企画課において所掌する。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか審議会に関し、必要な事項は町長が定める。

附則

この条例は、交付の日から施行する。

附則（昭和55年3月28日条例第9号）

この条例は、昭和55年4月1日から施行する。

附則（昭和55年7月14日条例第17号）

この条例は、交付の日から施行する。

附則（平成元年9月29日条例第20号）

この条例は、平成元年10月1日から施行する。

附則（平成17年3月22日条例第1号）

この条例は、平成17年4月1日から施行する。

## 6 町長の諮問及び審議会の答申

三総企発第 1024号  
平成23年 1月20日

三股町総合計画審議会

会 長 木佐貫 三男 殿

三股町長 木佐貫 辰 生

### 第四次国土利用計画・三股町計画について（諮問）

三股町総合計画審議会条例に基づき、第四次国土利用計画・三股町計画(案)について貴審議会に諮問します。

平成23年 2月14日

三股町長 木佐貫 辰 生 様

三股町総合計画審議会

会 長 木佐貫 三男

### 第四次国土利用計画・三股町計画について（答申）

平成23年1月20日付三総企発第1024号により、本審議会に諮問がありました第四次国土利用計画・三股町計画(案)につきまして、審議の結果、第五次三股町総合計画に基づき、概ね妥当なものと認め、ここに答申します。

また、本計画に掲げられた土地利用の方針等については町民に周知し理解を得て、国土の利用に関する行政上の指針として活用され具体的施策に反映されることを期待いたします。

## 7 三股町総合計画（国土利用計画）審議会委員名簿

氏名	区分	職域
木佐貫三男	自治公民館関係	三股町自治公民館連絡協議会会長
渡具知惟勝		三股町自治公民館連絡協議会副会長
久松五雄	福祉関係	三股町民生委員児童委員協議会会長
前田孝子		三股町保育会会長
中内弘美		三股町身体障害者連絡協議会会長
佐澤靖彦	商工関係	三股町商工会会長
岩崎てつ子		三股町商工会婦人部部長
池邊美紀		三股町観光協会会長
大村昭一	農林関係	三股町農業委員会会長
福永廣文		都城農業協同組合理事
山領征男		都城森林組合理事
坂元克吉	教育関係	三股町教育委員会委員長
藤野忠弘		三股町壮年連絡協議会会長
中村 新		三股町体育協会会長
森 秋生		三股町女性団体連絡協議会会長
柳橋一彦	知識経験者	

---

第三次国土利用計画  
(三股町計画)

---

平成23年3月

**発 行**

宮崎県三股町  
〒889-1995  
宮崎県北諸県郡三股町五本松1-1  
電話(代表)0986-52-1111

**企画・調査**

株式会社 ぎょうせい